

盛岡の子どもたちに 「夢」と「誇り」と「志」を

●令和3年度版●

「盛岡の先人教育」実践事例集



盛岡市教育委員会

令和 3 年度版 「盛岡の先人教育」実践事例集

目 次

- 1 盛岡市立桜城小学校
- 2 盛岡市立杜陵小学校
- 3 盛岡市立下橋中学校
- 4 盛岡市立緑が丘小学校
- 5 盛岡市立高松小学校
- 6 盛岡市立黒石野中学校

令和３年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

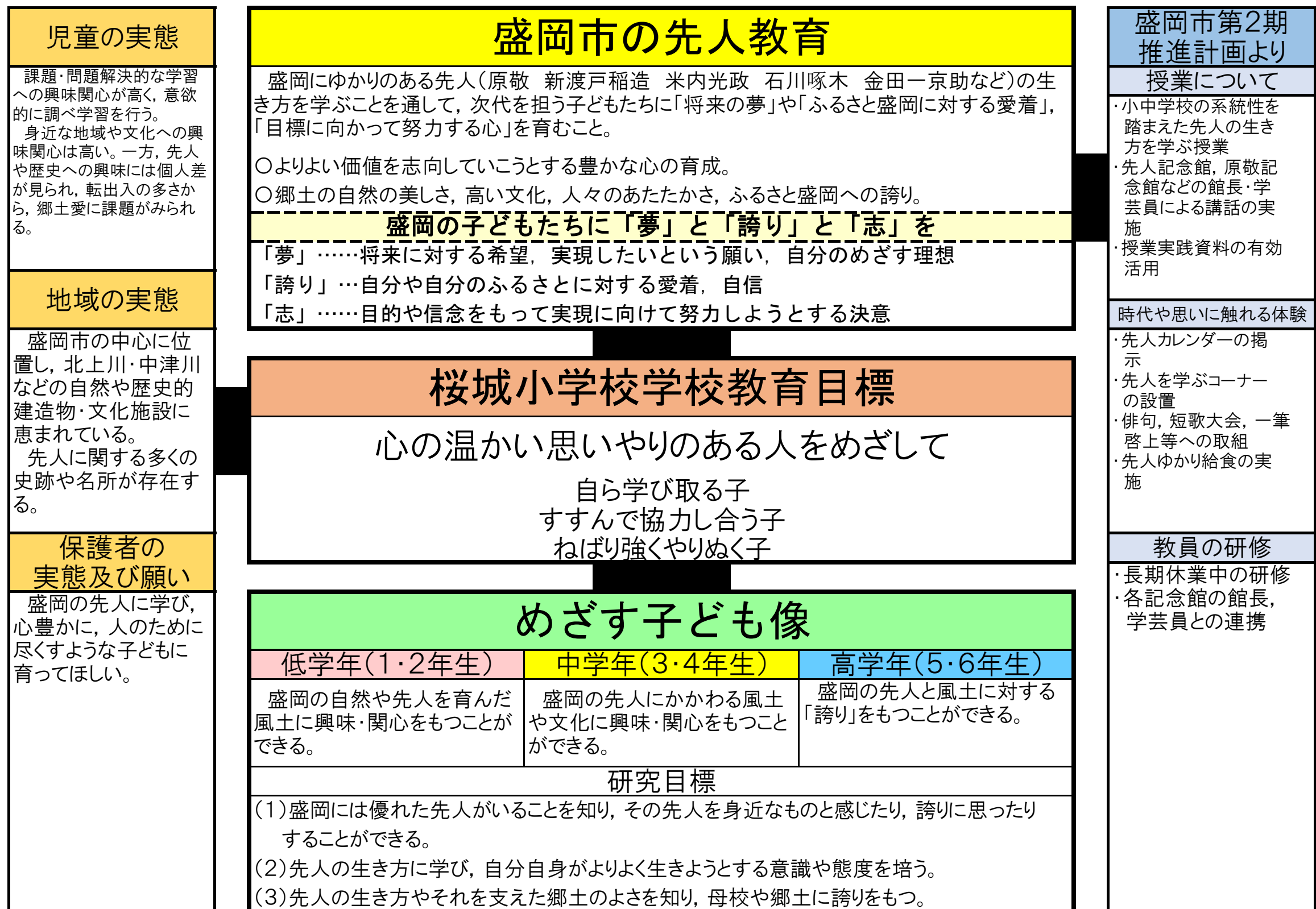
盛岡の先人から「生き方」「考え方」を知り，自分を見つめ直すことのできる児童の育成

盛岡市立桜城小学校

目 次

先人教育全体計画	1
1 研究主題設定の理由	2
2 研究の目標	2
3 研究の基本的な考え方	2
4 取組の概要	3
第1学年「盛岡の先人「原敬」さんについてしろう」	3
第2学年「新渡戸稲造さんとなかよし」	4
第3学年「盛岡の名所を調べよう ～啄木新聞を作ろう～」	5
第4学年「学区にゆかりのある先人に キャッチコピーをつけよう」	6
第5学年「米内光政・金田一京助について 先人クイズで紹介し合おう」	7
第6学年「先人から学ぼう～舟越保武～」	8
全学年「舟越保武さんとともに ～創立113周年記念集会において～」	9
5 成果と課題	9

【先人教育全体計画】桜城小学校



	各教科(社会科・生活科等)	道徳	総合的な学習の時間・特別活動	キャリア教育
	基本的学習習慣の確立 自己調整学習能力の育成 学び合う態度の育成 将来の基盤となる知識、技能	道徳的心情 道徳的判断力 道徳的实践力 よりよい生き方、生活の追求	課題発見・課題追究・課題解決 情報収集・情報活用 体験的な活動・集団的活動(異年齢) 学校行事・望ましい人間関係	人間関係調整能力・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力
1年	学校たんけん、中津川たんけん 秋みつけ 【盛岡の自然】 ※身近な自然、石碑の気付き	・やらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ・友達と仲よくし、助け合う。	盛岡の先人を知ろう ・原敬	・健康、安全、規則正しい生活 ・基本的な生活習慣、善悪の判断の確立 ・好きなもの大切なものをもつ ・一生懸命に取り組む
2年	中津川たんけん 町たんけん 【盛岡の場所】 ※盛岡の自然、場所への気付き	・生きることを喜び、生命を大切にすることを。 ・働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 ・郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	盛岡の先人を知ろう ・新渡戸稲造(子ども武士道)	・郷土に親しみ、愛着をもつ ・働くよさを知り、進んでみんなのために働く ・好きなこと、得意なことを増やす
3年	わたしたちのまち盛岡 りんご作り 【盛岡の人・名所】 ※「啄木新婚の家」の見学 ※「啄木カルタ」の実施	・やろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 ・相手のことを思いやり、進んで親切にする。 ・友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。	盛岡の名所をたずねよう ・石川啄木 (盛岡城跡公園・啄木カルタ)	・自分のことは自分で行う ・よく考えて行動する ・友達のよさを知る 自分のよさを伸ばす ・自分の力で解決する
4年	わたしたちの岩手県 【郷土に尽くした人々】 ※多くの先人に触れる (関心・意欲の醸成)	・生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切に。 ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 ・郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ	盛岡の先人を学ぼう ・大島高任(記念碑・講話)	・仕事を最後までやり通す ・郷土を大切にする。外国の文化に関心をもつ ・係や当番活動に積極的に取り組む ・身近にある職業への関心と将来の夢・希望
5年	日本の産業 【盛岡の伝統工芸】 ※先人の生き方、考え方を学ぶ ※出前講座、記念館等の見学	・より高い目標。希望と勇気もちくじけずに努力する。 ・公正な思いやりの心もち、相手の立場に立った親切。 ・互いに信頼し、友情を深め、男女仲よく協力する。 ・生命のかけがえのなさを知り、自他の生命を尊重する。	盛岡の先人の生き方に学ぼう ・米内光政 ・金田一京助(記念館)	・生活習慣の大切さ、意義を理解する ・相手の立場に立ち考え行動する ・自律的に責任ある行動ができる ・課題や問題点に気付き、自分で解決する
6年	日本の歴史 【盛岡の歴史】 ※先人の生き方、考え方を学ぶ ※出前講座、記念館等の見学	・働くことの意義の理解。社会奉仕の喜びと公共のために役立つことをする。 ・郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。	盛岡の先人の生き方に学ぼう ・舟越保武(資料館・手紙) ・ドリームマップ	・くじけず努力する ・我が国と外国の伝統・文化を大切にする ・奉仕する喜びを知り、公共のために役に立つ ・将来のことを考え、実現に向け努力する
その他 関連する活動	学級経営	生徒指導	外国語・外国語活動	人権教育
	自己肯定感の育成 自己有用感の育成	一人一人を大切にした指導 社会性の育成	コミュニケーション能力 異文化理解 グローバル化への関心	自分を大切にする 他者を尊重する 多様性の理解

学校名	盛岡市立桜城小学校	児童数	350 名
研究主題	盛岡の先人から「生き方」「考え方」を知り、自分を見つめ直すことのできる児童の育成		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育基本計画における「目指す市民像」は、「多くの先人を育んできた美しいふるさと岩手を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。この市民像に迫るため、平成 27 年度から第 2 期推進計画のもと、小中学校 9 年間の系統性を踏まえた先人教育の取組が推進されている。

本校は、学校教育目標を「心の温かい思いやりのある人の育成」とし、教育活動を行っている。自分と他との関わりを大切にしながら温かく思いやりのある人格を育成するために、先人の生き方や学び方から多くのことを学ぶことができると考える。桜城小学区や盛岡市にゆかりのある原敬、大島高任、舟越保武、新渡戸稲造、米内光政ら数々の業績を残した先人達から「生き方」や「考え方」を学び、自分自身を見つめ直すことで、盛岡市が掲げる『夢』と『誇り』と『志』を備えることに近づけること、また、母校や故郷に対する愛着も一層深まるであろうと考え、この主題を設定した。

2 研究目標

- (1) 盛岡には優れた先人がいることを知り、その先人を身近に感じたり、誇りに思ったりすることができる。
- (2) 先人の生き方に学び、自分自身がよりよく生きようとする意識や態度を培う。
- (3) 先人の生き方やそれを支えた郷土のよさを知り、母校や郷土に誇りをもつ。

3 研究の基本的な考え方

- (1) 本年度の重点

- ・発達段階や各教科・総合的な学習と関連させた学習活動の充実を図る。
- ・先人を身近に感じる手立てを行い、理解を図る。

- (2) 小中連携の工夫及び配慮

市教研ブロックである盛岡市立下橋学校、盛岡市立杜陵小学校との連携を「復興教育」と併せ、防災や安全に対する意識を高める。

4 取組の概要

単元名	盛岡の先人「原敬」さんについてしよう	学年	第1学年
-----	--------------------	----	------

(1) ねらい

- ・盛岡の先人の原敬について、興味をもつ。
- ・原敬の生き方を知り、どんな人だったか理解を深める。

(2) 指導計画（4時間）

段 階	内 容
導入（1時間）	・先人給食の「原敬」が好んだ給食を食べ、どんな人物だったか、どんなことをしてきた人かに興味をもつ。
展開（2時間）	・講師を招き、原敬の一生を捉え、どんな人だったのかを学ぶ。 ・講話から学んだことを感想にまとめる。
終末（1時間）	・原敬について分かったことを発表し、交流する。

(3) 活動の様子

① 先人ゆかり給食 原敬が好んだ食べ物

児童は、原敬については、給食で紹介されるまで、名前も聞いたことがない子どもがほとんどであり、栄養士の説明を聞いて、総理大臣になった人だということを知った。原敬について学習していくことから、好んだ食事を知り、どんな人かに興味をもった。



【先人ゆかり給食】

＜児童の感想から＞

- ・ぼくは、はらたかしさんきゅうしょくで、メンチパターがおいしかったです。むかしに、こんなおいしいたべものがあつたのをしりました。
- ・はらたかしさんがすきなハヤシライス、ごはんがすすんだので、二かいもおかわりをしてしまいました。たかしさんが、すきなきもちがわかりました。

② 出前授業「原敬」について 盛岡てがみ館 館長 及川 政己先生

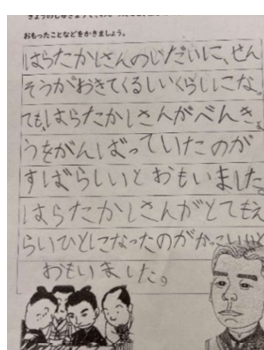
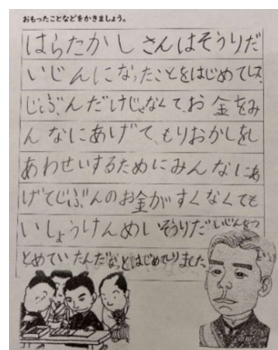
原敬の一生のクイズや写真を入れながら、どんな時代に生きた人なのか、不幸な出来事が起きても、自分の信念をもって生き、日本のためや郷土のために働き、最後は総理大臣にまでなった人であることを教えてもらった。クイズで楽しく理解することができた。



【「原敬」出前授業】

③ 学習後の振り返りの様子

講話を通して、原敬についての生き方から学んだことを感想にしてまとめた。苦労しながらも、勉強し続けたことや、みんなのことを大切にしていたことが分かり、原敬という先人を身近に感じる事ができた。



【児童の振り返りの記述】

単元名	盛岡の名所をたずねよう ～啄木新聞を作ろう～	学年	第3学年
-----	------------------------	----	------

(1) ねらい

盛岡の先人である石川啄木の略歴や残した歌を調べ、啄木新聞にまとめることを通して、理解を深める。

(2) 指導計画（10 時間）

段 階	内 容
導入（2 時間）	・ 1 学期に盛岡城跡公園で学習した「石川啄木」の歌碑を想起し、どんな人物だったか、どんなことを詳しく知りたいかを話し合う。 ・ 「啄木新聞」を作ることを目標に、課題意識をもち、学習計画を立てる。
展開（7 時間）	・ 「啄木新婚の家」を見学し、当時の暮らしの様子や啄木の一生を捉える。 ・ 講師を招き、啄木の学生時代の様子（桜城小学区で暮らしていたこと）を捉える。 ・ パソコンを使って、個々の課題を追究する。 ・ 「石川啄木」について調べたことを「啄木新聞」にまとめる。
終末（1 時間）	・ まとめた「啄木新聞」を交流し合い、学習を振り返る。

(3) 活動の様子

① 「啄木新婚の家」見学

1 学期の総合的な学習の時間「盛岡の名所をたずねよう～盛岡城跡公園～」の学習で、石川啄木に興味をもった児童もいたため、名前や城跡公園にある歌碑については認識があった。しかし、もっと身近な場所に啄木が暮らしていた場所があったことを知り、興味をもって部屋を見学し、当時の暮らしの様子や啄木の一生など大まかに捉えることができた。



【「啄木新婚の家」の見学の様子】

② 前桜城小学校校長 佐藤智一先生のお話

昨年度校長の佐藤智一先生をお招きして、啄木の学生時代の様子や下宿先としての家を転々としていたこと、それが全て桜城小学区であったことなどを、当時の地図や写真を交えながらお話しいただいた。最後には、質問コーナーを設け、なぜそんなに下宿先を変えていたのか、なぜ若くして亡くなったのか、なぜ啄木の歌は亡くなってから有名になったのか等、子どもたちが疑問に思ったことを教えていただくことができた。自分たちの暮らすこの場所に啄木が暮らしていたこと、昔の地図など、興味をもって学習をすることができた。



【啄木に係る資料の掲示】

③ 学習後の振り返りの様子

見学や講話、調べ学習を通して、盛岡の先人である「石川啄木」を身近に感じることができたようである。普通より一年早く小学校に入学したことや下宿先を変えたこと、節子さんとの出会いや、たくさん残した歌など、それぞれに興味をもったことについて「啄木新聞」に表すことができた。学習を通して、先人「石川啄木」を身近に感じ、自分たちの岩手の先人であることに誇りをもつことができたことが何よりの成果であった。



【佐藤智一先生のお話】

単元名	学区にゆかりがある先人にキャッチコピーをつけよう	学年	第4学年
-----	--------------------------	----	------

(1) ねらい

- ・桜城小学区にある先人ゆかりの地を巡り、先人について興味をもつ。
- ・先人について調べ、キャッチコピーをつけることを通して、先人についての理解を深める。

(2) 指導計画（13 時間）

段 階	内 容
導入（3 時間）	・先人ゆかりの地を巡り、児童の課題をもとに学習計画を立てる。
展開（8 時間）	・3年生までに学習した原敬（1 学年時）、石川啄木（3 学年時）の略歴を確かめる。 ・大島高任の略歴をパワーポイント資料で学ぶ。 ・3 人の先人についてインターネットや「盛岡の先人」等で調べる。
終末（2 時間）	・調べたことをまとめ、3 人の先人にキャッチコピーをつける。 ・先人につけたキャッチコピーと理由を交流し、単元の学習全体を振り返る。

(3) 活動の様子

① 先人ゆかりの地巡り

単元の導入で、学区にある先人ゆかりの地を巡った。原敬別邸遺構、大島高任生誕の地、石川啄木新婚の家を見学することで、3年生までに学習した原敬と石川啄木について身近に感じるとともに、ゆかりの場所が建物や碑で現在まで残されていることから、それぞれの功績の偉大さについて改めて知ることができた。しかし、大島高任についてはどんな人物なのかよく分からない児童が多く、調べてみたいと興味をもたせることができた。



【先人ゆかりの地巡り】

② 先人について調べる

初めに、原敬と石川啄木については「盛岡の先人」を使って調べた。児童があまり知らなかった大島高任については、本校で作成したパワーポイント資料を使って、生い立ちや人物像、功績について学んだ。また、釜石からの転入児童が「わたしたちの釜石」に掲載されている高任の資料を紹介してくれたことで、さらに理解を深めることができた。高任が「近代製鉄の父」と称されていることや、製鉄の地となった釜石の高炉跡が世界遺産に登録されたことを知り、高任生誕の地が学区内にあることに誇りをもった様子だった。



【大島高任パワーポイント資料】

その後、3 人の先人についてインターネットや本等で調べ、自分が興味をもったことを中心に学習シートに記録した。

③ 先人につけたキャッチコピーと理由を交流し、学習を振り返る

先人について調べたことをキャッチコピーと理由にまとめ、交流した。キャッチコピーには、先人の人柄や努力の過程、志についてなど、児童が先人に抱く憧れや尊敬の気持ちが様々な言葉で表されていた。先人について理解を深めるだけでなく、児童一人一人の考えの違いに気付くこともできた。本単元で、学区にゆかりのある先人に絞って学習することを通して、自分たちの学区に更に誇りをもつことができた様子だった。

「決してあきらめない、鉄のように強い心の持ち主」
すぐく大変なことに何度出合っても、あきらめず
に鉄づくりに力を注いだ強い心が素晴らしい。

「たくさんの鉄を作るために努力し続けた大島高任」
強い鉄をたくさん作るために、ふさわしい材料や
場所などを調べ、洋式高炉を作った努力がすごい。

【大島高任につけたキャッチコピーとその理由】

単元名	米内光政・金田一京助について先人クイズで紹介し合おう	学年	第5学年
-----	----------------------------	----	------

(1) ねらい

米内光政と金田一京助について調べ、クイズ作ることを通して盛岡の先人についての理解を深める。

(2) 指導計画（4時間）

段 階	内 容
導入（1時間）	・米内光政と金田一京助の簡単な説明を聞き、どちらの人物について調べるか決める。 ・ロイロノートの使い方を確かめる。
展開（2.5時間）	・インターネットや「盛岡の先人」を使って調べる。 ・調べたことをロイロノートのカードにまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 ・先人クイズ大会を行い、二人の先人についての理解を深める。
終末（0.5時間）	・単元を振り返る。

(3) 活動の様子

① 先人について調べる

自分が選んだ人物について、インターネットや「盛岡の先人」を使って調べた。先人の生き方や考え方、業績などを中心に調べ、クイズ形式にしてロイロノートのカードにまとめることを通して、先人への理解を深めた。

【児童が作った問題】

第2問 アイヌ語には、昔から伝わる物語を長い詩にして朗読するものが、あります。これを、何と言うでしょう。	第2問 1、アイヌ詩 2、ユーリリ 3、ユーカラ	答え： 3、のユーカラです。 説明 ユーカラを、日本語に訳してアイヌの人の心を、後に残そうと思ったそうです。
--	-----------------------------------	---



【クイズのプレゼンを作る様子】

第2問 米内光政さんがたくさんの人から信頼される理由は何でしょう	1. 国民のために命懸けで働くから 2. 控えめでいながら大事な時にはきちんと仕事をやるから 3. 決して人を傷つけないから	正解 1. 2. 3. 米内光政さんは誰にでも親切で相手の気持ちを考える人だから
-------------------------------------	--	--

② クイズ大会

班の中で、米内光政を調べた児童と金田一京助を調べた児童とでクイズを出し合い、自分が選んでいない先人についても理解を深めた。また、代表者が前でプレゼンテーションを行い、全体でもそれぞれの先人について学んだ。クイズを出し合うという目的のもと、調べ学習を行ったことで、先人について主体的に調べようという態度が見られた。

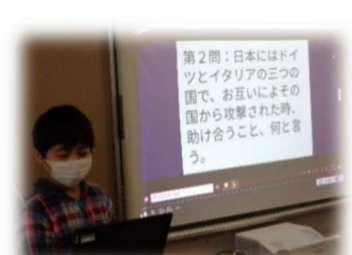


【班でクイズを出し合う様子】

③ 振り返りの様子

児童の感想からは、それぞれの先人について理解が深まった記述がみられた。

米内光政さんのことを調べて、国民のために命がけで働き、日本で大活躍したのだと分かったし、私も親戚な人になりたいと思いました。	私は金田一京助が、日本人で唯一アイヌ語の研究をしたということにとてもびっくりしました。
同じ米内光政を調べていましたが、クイズを出されたときは私が調べていないこともあり、とても勉強になりました。	盛岡の下橋中から多くの有名人が出ているのに驚きました。金田一京助であれば国語辞典を作るなどそういう先人のおかげで生活できているのだな、と感じました。



【全体でプレゼンする様子】

単元名	先人から学ぼう～舟越保武～	学年	第6学年
-----	---------------	----	------

(1) ねらい

本校とゆかりのある先人である舟越保武氏について調べ、舟越氏の生き方や考え方に触れ、これからの生活に生かそうという意識を高める。

(2) 指導計画（5時間）

段 階	内 容
導入（1時間）	・舟越保武氏について調べ、舟越氏の人生の大体を知る。
展開（3時間）	・調べたことをグループ毎に交流し、課題を設定し調べを深める。 ・グループごとに調べたことを整理しまとめる。 ・先人リーフレットを作成する。
終末（1時間）	・リーフレットを読み合い、学習のまとめをする。

(3) 活動の様子

① 舟越保武について知る

児童はこれまでに5年生の国語の学習ではやなせたかし、道徳の学習では新渡戸稲造、6年生の総合的な学習の時間では大島高任、国語の学習では宮澤賢治など、たくさんの先人の生き方や考え方について触れてきた。その学習を通し、それぞれの先人が「人のために」人生を尽くしたことを学んできた。今回取り上げる舟越保武は、本校の卒業生であるが、人物について詳しく知る児童は少なかった。



【「舟越保武」の先人コーナー】

② 舟越保武について調べる

インターネットを利用し、個人、グループで舟越保武氏について調べ、経歴や偉業を学ぶ学習を行った。学習を通し、彫刻家であること、有名な作品が盛岡市内にも設置され、自分たちも日常目にしていたことを知った。更に秋田県の田沢湖「たつ子姫の銅像」も舟越保武氏の作品であることを知ることができ、より身近な存在となった。

③ 調べたことを基に、先人リーフレットにまとめる

宮澤賢治について学習した際、作品リーフレットにまとめたことを生かし、今回は「先人リーフレット」を作成し、舟越保武を知らない人たちのためにリーフレットを作ることにした。リーフレットでは、「何のために生きた人か」「舟越保武から学んだこと、これからの自分の生き方に生かしたいこと」についても記載した。



【リーフレット作成の様子】

単元名	舟越保武さんとともに ～創立 113 周年記念集会において～	学年	全学年
-----	-----------------------------------	----	-----

(1) 目的

- ・桜城小学校の第 17 代卒業生で、日本を代表する彫刻家になった舟越保武の人生を振り返り、生き方と偉業について興味をもつ。
- ・舟越保武が小学生時代の桜城小学校や子どもたちの様子について知る。

(2) 日時 11 月 4 日（木）「桜城小学校 創立 113 周年記念集会」

(3) 講演 桜城小学校 校長 紺野 好弘

(4) 内容

写真や記録等から舟越保武の幼少から晩年までの様子や生き方について学んだ。また、舟越保武の作品に触れ、その制作過程や制作に打ち込む姿勢、功績の偉大さについて考えた。

紹介した作品 「長崎 26 殉教者記念像」「原の城」「ダミアン神父」「聖セシリア」等



【創立 113 年記念集会講演会】

桜城尋常小学校時代の舟越さん



【秋田県田沢湖にあるブロンズでできた「たつこ像」】

私が今日心に残ったことは、保武さんは、日本で石をほるということが広まっていな中、自ら学びにいくという努力をしたことと実在した人の像をほるときにそれぞれの気持ちや人生を考えていたということです。さらに、最後まで「彫刻」という道をつらぬいたこともすごいと思いました。自分たちの先輩に世界にも名を残す偉大な人がいたということを改めてすごいなと感じたし、これからも、ほこりに思いながら生活していきたいと思いました。そして、もっと追究してみたくくなりました。（6 年女子）

5 成果と課題

(1) 成果

- ・先人教育全体計画に合わせて、先人記念館や原敬記念館の資料等を活用しながら、学習を進めることができた。
- ・地域にある先人の建物や碑等を巡り学習したことで、先人の功績の偉大さを感じるとともに、身近に感じる事ができた。
- ・出前講座を通して児童は先人に興味をもち、発達段階を踏まえた内容で理解を深めることができた。
- ・本校出身の先人について詳しく知ることで、先人の生き方を自分に生かしたいという思いをもつことができた。

(2) 課題

- ・学年の実態に合わせた教材にしていく必要があり、全体計画の見直しが必要である。
- ・取組時数が、学年によって違うので、学年に応じた時数を設定していく。
- ・学習内容が引き継がれるよう、今年度の学習を次年度に引き継いでいく。

令和３年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞
**先人の生き方を自己の生き方に
生かす子どもの育成**

盛岡市立杜陵小学校

目次

1	研究主題設定の理由	1
2	研究の目標	1
3	研究の基本的な考え方	1
4	取組の概要	1
	本校の先人教育全体計画	2
	6 学年総合的な学習の時間「こずかた」	
	における先人教育	2
5	成果と課題	6

学 校 名	盛岡市立杜陵小学校	児童数	215 名
研究主題	先人の生き方を自己の生き方に生かす子どもの育成		

1 研究主題設定の理由

盛岡には優れた先人が多数いるが，日常生活の中でその生き方や業績や思想に触れる機会は多くない。授業において先人の生き方等について学び，更にキャリア教育との関連を図ることで，先人の生き方等を自己の生き方に生かし，よりよく生きようとする子供に育てたいと考えた。

2 研究の目標

- 盛岡には優れた先人がいることを知り，その先人を身近に感じたり，誇りに思ったりすることができ
- 先人の生き方に学び，自分自身がよりよく生きようとする意識や態度を培う。
- 先人の生き方やそれを支えた郷土のよさを知り，郷土に誇りをもつ。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- 1～4年 先人にかかわる人や土地について「興味・関心」をもつ。
- 5～6年 盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ。

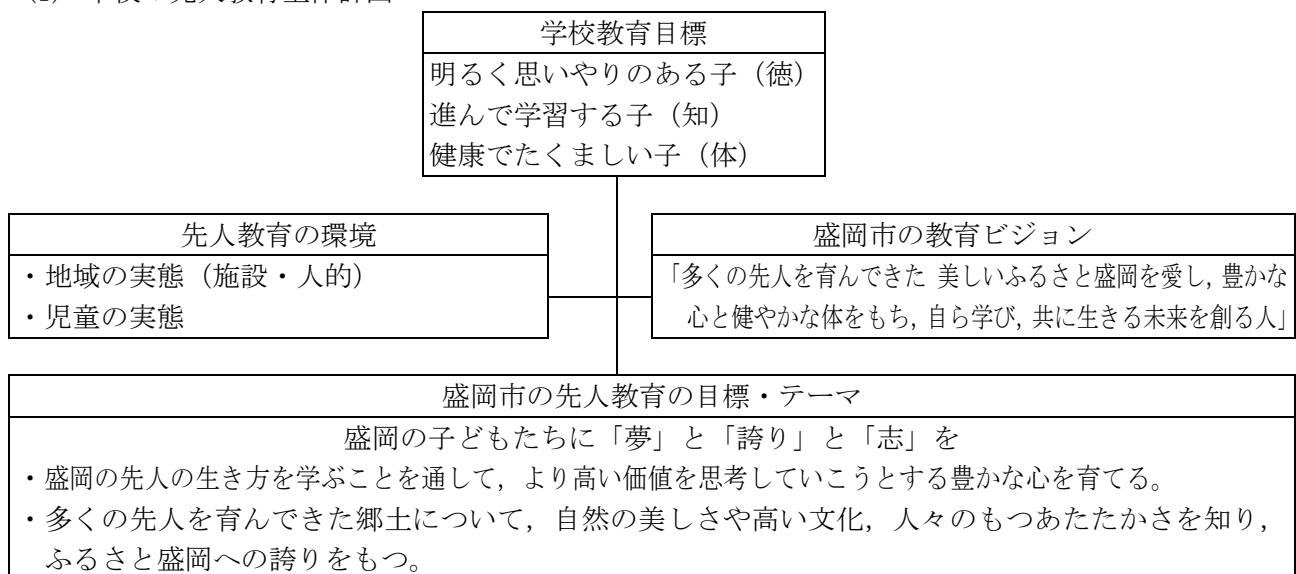
(2) 小中連携の工夫及び配慮

中学校との接続である6学年という時期に，キャリア教育と関連付けながら先人教育を行うことで，自分を見つめ，より高い志をもって中学校へと進学できるようにしたい。また，その中で，本校の多くの児童が進学先としている下橋中学校の「校史館」を見学する機会を設けることで，先人への理解を深めるだけではなく，進学への期待等を高める機会とした。

4 取組の概要

単元名	なりたい自分になるために	学年	6 学年
-----	--------------	----	------

(1) 本校の先人教育全体計画



杜陵小先人教育の目標
○盛岡には優れた先人がいることを知り、その先人を身近に感じたり、誇りに思ったりすることができる。
○先人の生き方を学び、自分自身がよりよく生きようとする意識や態度を培う。
○先人の生き方やそれを支えた郷土のよさを知り、郷土に誇りをもつ。

本年度の重点
(総合的な学習の時間や各教科、道徳、特別活動との関連を図る。)
1～4年 先人にかかわる人や土地について「興味・関心」をもつ。
5～6年 盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ。

【年間計画】

	教科及び総合的な学習	道徳	特別活動等
1 学期	【1年・生活】 岩手公園・中津川で遊ぼう 【2年・生活】 杜陵仲良し探検隊 (岩手公園, 歴史文化館, 桜山神社) 【3年・総合】 もっと知ろう 杜陵のまち (岩手公園, 歴史文化館, 桜山神社) 【4年・総合】 わたしたちのまち 盛岡 (もりおか歴史文化館) 【6年・総合】 先人に学ぶ (副読本 盛岡の先人)	チャグチャグうまっこ (1年5月) 虎舞 (6年6月) うけついで浅沢神楽 (4年7月) けい君の秋田竿灯まつり (3年7月)	【図書委員会】 先人コーナー管理
2 学期	【4年・国語】 短歌・俳句に親しもう (2) (石川啄木) 【6年・国語】 やまなし (宮澤賢治) イーハトーブの夢 【5年・総合】 中津川に思いを馳せて (河川維持のための先人の努力) 【6年・総合】 なりたい自分になるために (導入での話題提示など新渡戸稲造他)	ながいながいつうがくろ (2年9月) 心をつないだ合言葉 (3年11月) ふるさとを守った大イチョウ (4年10月) にちようびのさんぽみち (1年11月) 白神山地 (6年11月) さんさの音が聞こえるよ (1年12月)	【児童会活動・9月】 なかよし岩手公園 (石碑, 歌碑等) 【学校行事・11月】 開校記念集会
3 学期	【3年・社会】 わたしたちの市の歩み		先人給食 【給食委員会・2月】 先人給食の紹介
・施設等の活用 (盛岡城跡公園, 先人記念館, もりおか歴史文化館, もりおか啄木・賢治青春館) ・「小中学生俳句・短歌大会」「子どもと話そう・親子の架け橋～一筆啓上～」の紹介とよびかけ ・図書館での先人関係図書の充実 (コーナー設置, 可動式書架) ・朝読書での副読本「盛岡の先人」の活用			

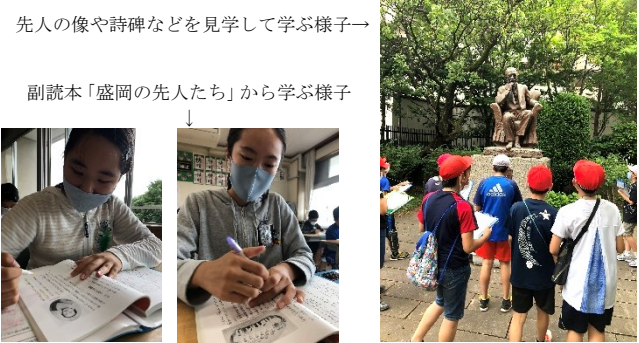
(2) 6学年総合的な学習の時間「こずかた」における先人教育

総合的な学習の時間は、「なりたい自分になるために」と題して、将来自分がなりたい姿を思い描き、なりたい自分になるために必要なことや大切なことを一人一人が探究していく活動を行った。

子どもたちの「どんな生き方をしたらいいのか」という課題の解決では、地区に縁のある先人が多くいることを紹介し、盛岡の先人の生き方に目を向けさせた。文献、公共文化施設見学、専門家による先人の話から、情報収集、整理・分析を通して先人の生き方についてまとめた。

先人についての学習を通して、「先人の業績・願い・大切にしているものや考え方」等の生き方を探る視点としてもてるようにした。その視点で、様々な職業の方から直接話を聞いたり、自分で調べたりする活動を通して、自分自身を見つめるとともに、一人一人が自分の夢や希望をもち前向きに努力する意欲を高めることが出来るようにした。

年間 70 時間の総合的な学習の計画と実際の活動の様子は以下のとおりである。

時 期	主な学習活動	実際の活動の様子
4 月 5 月	○この1年、どんな目的とテーマで学んでいくのか話し合う。 自分の将来や生き方について考えよう。 ○学習の進め方の見通しをもつ ・ 解決の見通し ・ 調査方法の見通し	キャリアパスポートとの関連 キャリアパスポートで4月の自分を見つめたことで明らかになったこと ①小学校卒業の年であることの意識 ②中学校進学に対する思い・願い ③将来の自分についての思い・願い ④未来の自分の姿が考えられないこと ⑤どんな仕事があるのか分からないこと ⑥どんな生き方をしたらいいのか分からない不安 「今の自分」を見つめたことで、6年生の総合的な学習の時間の学習を通して、自分の将来や生き方について考えていきたいという思いが生まれた。
6 月 7 月	○先人について調べる。 先人の生き方を学ぼう (語り継がれる訳や魅力を探る。) ・ 副読本「盛岡の先人たち」を読む。 ・ 地域を散策する。 ・ 下橋中学校「校史館」を見学する。 ・ 先人及び原敬記念館を見学する。 ※コロナの影響で先人記念館と原敬記念館の見学計画が中止となり、原敬記念館館長に来校していただいた。児童は講話から学びを深めた。  原敬記念館の館長から学ぶ様子	「先人、家族、地域の方から生き方を学びたい」という児童の思いから課題を設定した。 先人の像や詩碑などを見学して学ぶ様子→ 副読本「盛岡の先人たち」から学ぶ様子  ↓多くの児童の進学先である下橋中学校の「校史館」を見学し、副校長先生に説明していただいた。  多くの先人が下橋中学校出身ということを感じ、身近なところにいたことが誇らしい気持ちになった。(児童の感想より)

7
月

○集めた情報をもとに整理分析する。

- ・付箋に得た情報を書き出し、内容を分類しながら先人の魅力に気付くことができるようにする。

- ・他のグループの考えを聞き、先人の生き方や考え方を探る視点を明確にする。
- ・「業績」「大切にしているものや考え方」などの視点をもちつことができるようにする。

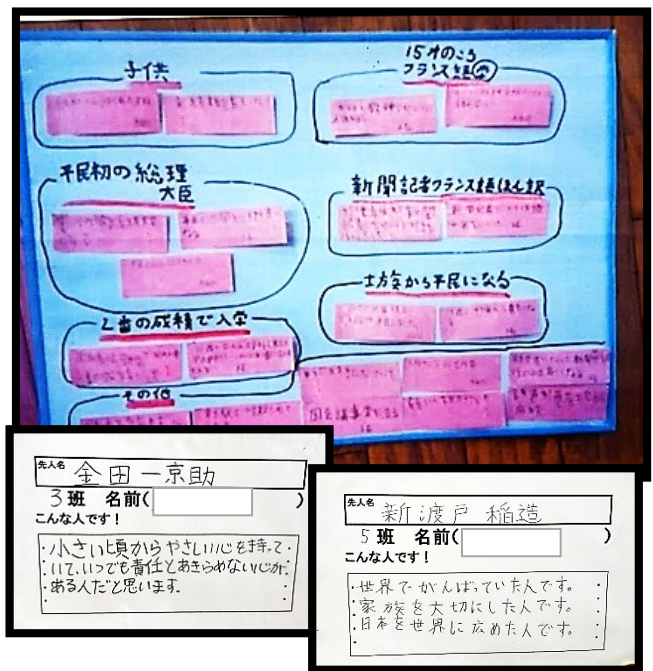
○探究したい先人について調べる。

- ・ネットを活用する。
- ・グループで協働的に調査する。
- ・「先人から学んだこと」をグループでポスターに整理する。
- ・ポスターをもとに交流する。

交流により見付けた

「先人に共通すること」

- ・日本や世界が平和になってほしいという願い。
- ・何かを実行するために強い意志をもっている。
- ・人のことをみんな考えていて、責任感・使命感が強い。
- ・大切なものはそれぞれ違っても、命をかけて大切にしたい。
- ・自己中心的ではなく、他人を考えた上で行動している。
- ・自分の考えに責任をもっている。
- ・人とのかかわりを大事にしている。
- ・思いやりがある。 等



先人の業績等についてグループ毎にまとめたポスター



作成したポスターをもとに4人の先人について交流した

○4人の先人に共通する思いについてまとめる。

- ・4人の先人から学んだことを、自分の生活に関連付けて考えられるようにする。



4人の先人に共通する思いについて交流する児童の様子



交流から学んだこと (N. S)

友達と交流してみて、ほとんどの人から「人のために」「誰かのために」という言葉が出てきていました。人のことを考えたら、その人のために何ができるのか考え、それを実行するという考えにつながりました。自分と友達の意見を関連付けることで考えを深めることができました。これからも、先人の生き方や友達の意見も取り入れながら生きていきたいです。



交流から学んだこと (O. S)

私は友達の話聞いて、人との関りも大切だと思いました。人との関りがないと生きていけないと思うし、他の人の考えや意見で、自分の意見を深めたりして成長につながると思ったからです。



交流から学んだこと (T. A)

人のため、身内・友達のためなど、様々な人に思いやりの心をもつことが大事だという意見に共感した。また、自分は先を見ることが大事だと思ったけれど、先のことを考えても諦めないで行動しないと意味がないと思ったので、あきらめない心も大事だと思った。



交流から学んだこと (J. S)

最後まであきらめずに努力し続けることが大事だと思いました。自分の目標に近づくためにあきらめずに続けることが必要だと共感したからです。また、家族や周りの人を優先することもいいことだと思いました。人の気持ちを考えてつながり合うことで支え合いながら生きていくことができると思ったからです。

様々な仕事をしている方から学ぼう。

- 10月
- ・どんな職業があるのか調べる。
 - ・本やネットで調べる
- 11月
- ・講師の方と直接交流する。
 - ・2次元表にまとめる。

キャリア教育との関連

調べたり聞いたりした内容を整理・分析する。調べる対象と調べる視点を2次元表で整理することで、「なりたい自分になるために」大切なことについてまとめる。
学習を振り返り、自分の生活に関連付けてまとめる。

学習を振り返ろう。

- 12月
- ・「なりたい自分」とはどんな自分か。
 - ・今の自分と「なりたい自分」を比較し、現状を認知し、自分にできることを考える。
 - ・学びを支えてくださった方々への感謝を伝える。

5 成果と課題

(1) 児童の変容

- ・読書時間などに自ら先人に関する本を手に取り読むようになった。先人に対する関心の高まりが見られた。
- ・多くの児童の進学先である下橋中学校の「校史館」を見学することにより、児童の進学への期待や希望、誇らしい気持ちを育むことができた。
- ・「4人の先人から学んだこと」の児童の振り返りにも見られるように、これまで気が付かなかった「生きる上で大切なこと」に気付くことができた。そして、生き方に対する視野を広げたり深めたりすることができた。

(2) 次年度に向けての改善策

更に先人を支えた郷土のよさについての理解を深めたり、郷土に誇りをもったりすることができるよう、先人の生き方を学びながら、その先人を育んだ郷土のよさやすばらしさへも目を向けられるように授業をデザインしていきたい。

令和3年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

**先人から「生き方」「考え方」を
学び，自分を見つめ直すことので
きる生徒の育成**

**～歴史と伝統を意識させる様々
な活動場面の設定を通して～**

盛岡市立下橋中学校

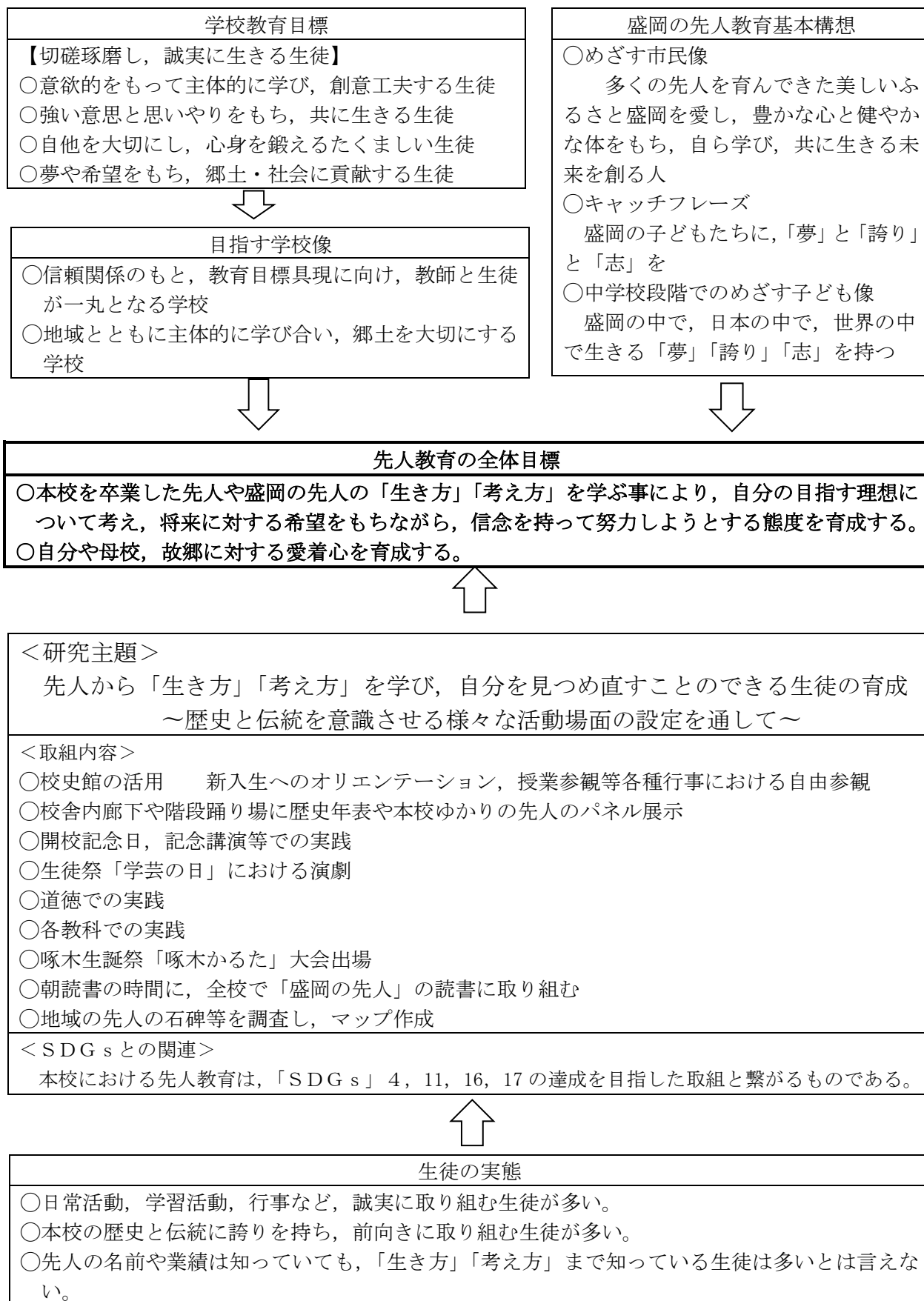
目 次

先人教育全体計画	1
1 研究主題設定の理由	2
2 研究の目標	2
3 研究の基本的な考え方	2
4 取組の概要	2
第3学年【社会科における取組】	
歴史的分野「二度の世界大戦と日本」	2
全学年【特別活動における取組】（地域奉仕作業）	
下橋中学校区生徒会&復興スクール事業	
「地域調査活動 in 下橋」	4
全学年【朝読書における取組】「先人読書週間」	4
全学年【総合的な学習の時間における取組】	
生徒祭「学芸の日」	5
第3学年【総合的な学習の時間における取組】	
「SHEL 学習」	6
第3学年【特別の教科 道徳における取組】	
「アイヌ語と共に～金田一京助～」	7
5 成果と課題	7
下橋中学校区生徒会&復興スクール事業	
「地域調査活動 in 下橋」 児童生徒アンケート結果	8



先人教育全体計画

盛岡市立下橋中学校



学校名	盛岡市立下橋中学校	生徒数	245 名
研究主題	先人から「生き方」「考え方」を学び、自分を見つめ直すことのできる生徒の育成 ～歴史と伝統を意識させる様々な活動場面の設定を通して～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育基本計画における「目指す市民像」は、「多くの先人を育んできた美しいふるさと岩手を愛し、豊かな心と健やかな体をもち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。この市民像に迫るため、平成 27 年度から第 2 期推進計画のもと、小中学校 9 年間の系統性を踏まえた先人教育の取組が推進されている。

本校は、教育目標を「切磋琢磨し、誠実に生きる生徒」とし、教育活動を行なっている。県内では最も古い学校として今年で創立 134 年目を迎え、金田一京助、米内光政、石川啄木など、多くの先人を輩出してきた。その先人達から「生き方」や「考え方」を学び、自分自身を見つめ直すことで、盛岡市が掲げる『夢』と『誇り』と『志』を備えることに近づけること、また、母校や故郷に対する愛着も一層深まるであろうと考え、この主題を設定した。

2 研究の目標

- (1) 盛岡の先人の「生き方」「考え方」を学ぶ事により、自分の目指す理想について考え、将来に対する希望を持ちながら、信念を持って努力しようとする態度を育成する。
- (2) 自分や母校、故郷に対する愛着心を育成する。

3 研究の基本的な考え方

- (1) 本年度の重点
 - ・先人教育を活かした教育活動を各教科、行事等で推進する。
 - ・先人教育に関する環境を整える。
- (2) 小中連携の工夫及び配慮

市教研ブロックである盛岡市立桜城小学校、盛岡市立杜陵小学校との連携を「復興教育」と併せ、共に進める。

4 取組の概要

単元名	【社会科における取組】 歴史的分野「二度の世界大戦と日本」	学年	3 学年
-----	----------------------------------	----	------

- (1) 学習目標
 - ・「米内光政」が太平洋戦争に向けて果たした役割を説明できる。【知識及び技能】
 - ・母校の先輩である「米内光政」について、興味を深める。【学びに向かう力、人間性等】
 - ※「いわての復興教育」との関連・・・「いきる」④[夢や希望の大切さとやり抜く強さ]

(2) 本時の展開

学習過程	学習活動	学習内容 ・ 予想される生徒の反応	■指導の工夫・支援 ◇振り返りの場面・活用
課題・見通し 10 分	1 前時の確認	○東日本大震災の様子の写真を提示する ○広島原爆直後の写真を提示する	■天災と人災の例として東日本大震災と太平洋戦争をあげる
	2 学習課題の設定	2 学習課題を設定する	
	太平洋戦争終結に向け、「米内光政」の果たした役割を知ろう		
	3 学習の見通し	○年表から、ポツダム宣言を当初日本は受け入れなかったことを読み取る ・最初からこの宣言を受け入れていたら、広島・長崎の悲劇は無かったかもしれない	■学習課題を提示し、本時の方向づけをさせる
自力思考・探究 15 分	3 課題に対する予想	3 課題について予想を発表する ○なぜ日本はポツダム宣言を受け入れなかったのか？ ・これまでの犠牲が無駄になる ・占領後の日本がどんな仕打ちを受けるかわからない ・天皇制を維持できない	■課題について、自由に予想させる ■資料を参考にしながら考えさせる
	4 予想に対する検証	4 予想に対する検証をする (1) 当時の日本の最大勢力図 ・敗戦を認めれば全ての権益を失う (2) 明治以降の日本の戦争犠牲者数 ・今までの犠牲が無駄になってしまう (3) 資料・司馬遼太郎が考えたこと2「百年の単位」 ・軍隊は国民を守ることからかけ離れた組織となっていた	
協働思考・深化 15 分	5 米内光政とは	5 米内光政が太平洋戦争以前より戦争に反対だったことを理解する ○日独伊三国同盟について ○ポツダム宣言受け入れを決定した御前会議について ○昭和天皇からの硯	■資料を参考にしながら理解させる ■資料を参考にしながら理解させる
学習整理 10 分	6 本時のまとめ	6 学習課題についてまとめる	◇本時で学習した内容について各自のことばで振り返りをさせる(疑問、学び、感想)
	ポツダム宣言受諾に反対もあった中、昭和天皇を助けて戦争終結を達成した。		
	7 本時の振り返り	7 振り返りシートに各自記入をする	

(3) 授業の様子

はじめに東日本大震災の写真と原爆投下後の広島の写真を提示し、天災は避けられないもの、戦争は避けられる可能性があるものとして例示をした。その後、既習事項を振り返りながら、日本政府がポツダム宣言を受け入れなかった理由について3つの資料から考えさせた。さらに、太平洋戦争前から「米内光政」は戦争に反対していたこと、また、ポツダム宣言受諾の最終決定であった御前会議でも「米内光政」は昭和天皇の意思を尊重する態度をとったこと等について理解させた。



〔 生徒の感想 〕

- ・米内光政はポツダム宣言受諾にたくさんの反対があったのに、昭和天皇を助け、戦争を終結に導いたのはすごいと思った。米内さんがいなかったら今の日本は無かったかもしれないのでありがたい存在だと思った。
- ・米内光政は天皇からも信頼され、復興や国家の再建を目指していたことを知り、誇らしく思った。
- ・米内光政は国民を想い、自分がどんな役回りになっても正しいと思ったことをはっきりと言えるのがすごいと思った。また、戦争を支持する人が多い中で、反対できた勇気が素晴らしいと思った。



単元名	【特別活動における取組】(地区奉仕作業等) 下橋中学校区生徒会&復興教育スクール事業「地域調査活動 in 下橋」	学年	全学年(小中連携)
-----	---	----	-----------

(1) 目的

小中学校が連携し、地域清掃や自分が住む地域の安全マップ作りを通して防災や安全に対する意識を高め、地域に誇りをもつ児童生徒を育成する。

(2) 日時

7月30日(金)

(3) 参加者

盛岡市立下橋中学校全校生徒
盛岡市立桜城小学校6学年
盛岡市立杜陵小学校6学年

(4) 内容

地域清掃・環境美化、安全マップ作成、
地区の先人の史跡や歌碑等の場所の把握

(5) 取組の様子

※別紙資料(児童生徒アンケート結果)参照



単元名	【朝読書における取組】 先人読書週間	学年	全学年
-----	-----------------------	----	-----

(1) 目的

盛岡の先人の生き方を通して、自らの生き方を見つめる時間とする。

(2) 日時

9月13日(月)～10月8日(金)の朝読書の時間

(3) 内容

副読本「盛岡の先人」(盛岡市中学校長会)の読書(最初から読み進める)
[取組の目安]

9/13(月)～9/16(木)「原敬」 ⇒ 9/17(金)感想等記入

9/30(木)～10/8(金)「新渡戸稲造」 ⇒ 10/6(水)～8(金)感想等記入



(4) その他

- ・ 9/17(金)は「原敬」について、10/6(水)～8(金)のうち、2日間は「新渡戸稲造」について感想等記入の時間とする。(記入日はおおよその目安)
- ・ 早く読み終えた生徒は次の先人について読み進める。
- ・ テスト予想問題やテスト勉強取り組みについては、9/27(月)～29(水)の朝読書時間は可能とする。
- ・ 図書委員が本やプリント等の管理・配布等の活動を行なう。



(5) 取組の様子 [生徒の感想]

先人読書週間 感想記入シート			
記入年月日	曜	人物名	感想(何をした人物か？性格は？自分の生き方に活かせることは？)
[2021] 年 9/17	金	原敬	外務次官や内務大臣、総理大臣など沢山の役職に勤めた。人の頼み事は断れない思いやりのある優しい方。お世話になった人や建物に決して恩を忘れない。困っている人がいたら自分より相手を優先でさる優しい人になりたい。
[2021] 年 10/12	火	新渡戸稲造	第一高等学校の校長や国際連盟事務次官などの役職に勤め、太平洋のかけ橋となった。自分の意志を必ず持っていて、人のため、将来のためにつくした。自分のため以外のことも考え、何に対しても、必ず意志をもちたい。
[202] 年		米内光政	

先人読書週間 感想記入シート			
記入年月日	曜	人物名	感想(何をした人物か？性格は？自分の生き方に活かせることは？)
[2021] 年 9/16	木	原敬	小柄的な政党内閣を初めて実現させた人物で、先見の明と広い視野とを、優れ、実務能力で政界などで活躍した。幅広い分野でその仕事ぶりや文才などが猛勉強であったように、自分の目の前にある課題と原敬のような粘り強さと努力で乗り越えていこうと思った。
[2021] 年 10/8	金	新渡戸稲造	国際的な政治家、教育者、農学者としての3つの顔をもつ人物で、この人物が出版した『武士道』には自分が考える思考状態以上に自分で思考と行動にすると、真の価値があると言っていた。自分もその真の価値のある人になるため、まずは行動に挑戦しよう。
[202] 年		米内光政	

単元名	【総合的な学習の時間における取組】 生徒祭「学芸の日」	学年	全学年
-----	--------------------------------	----	-----

(1) 目的

本校卒業生であり、盛岡市長を務めた「中村謙蔵」の取組をSDGs 6番「安全な水とトイレを世界中に」の学習と繋げ、理解することで、学校の歴史や伝統に誇りをもつ。

(2) 日時

10月9日(土) 生徒祭「学芸の日」

(3) 発表者

生徒会執行部員

(4) 内容

生徒会執行部による20分程度の演劇の全校披露



単元名	【総合的な学習の時間における取組】 SHEL 学習	学年	3 学年
-----	------------------------------	----	------

(1) 目的

本校出身の先輩方(先人)の生き方を通して、様々な生き方があることを知り、それを参考によりよく生きていくため自分の生き方につなげ、考える。

(2) 取組時期

11 月の総合的な学習の時間(SHEL 学習)

(3) 内容(取組時数)

- ① 本校出身の先輩方(32 名)について各自、調査する。(1 時間)
- ② 本校出身の先輩方(32 名)の中から 1 名を選択し、詳しく調査する。(1 時間)
- ③ 調査したことをポスターにまとめ、発表する。(2 時間)

(4) 盛岡市立下橋中学校の先人

NO.	分 野	氏 名
1	日本航空界の先達	長澤 賢二郎(ながさわ けんじろう)
2	俳人・米国自由律俳句の創始者	下山 逸蒼(しもやま いっそう)
3	平和外交に尽くした人	出渕 勝次(でぶち かつじ)
4	岩手洋画発展の功労者	清水 七太郎(しみず しちたろう)
5	金石文・郷土史家「南部叢書」、盛岡銀行頭取	太田 孝太郎(おおた こうたろう)
6	俳人・俳誌「夏草」功労者	宮野 小提灯(みやの こちょうちん)
7	社会運動家	石川 金次郎(いしかわ きんじろう)
8	盛岡金融界の先覚者・岩手銀行創立者	小野 慶蔵(おの けいぞう)
9	鳥類学者	葛 精一(くず せいいち)
10	東北社会経済史学者	森 嘉兵衛(もり かへえ)
11	盛岡ゆかりの詩人	石川 啄木(いしかわ たくぼく)
12	衆議院議長、農林大臣	田子 一民(たこ いちみん)
13	音楽教育に尽くした人	新藤 武(しんどう たけし)
14	鋳金家・東京芸術大学教授	内藤 春治(ないとう はるじ)
15	内閣総理大臣、海軍大将、良識の提督として	米内 光政(よない みつまさ)
16	言語学者、アイヌ・ユーカラに生きて、文化勲章受章者	金田一 京助(きんだいち きょうすけ)
17	声楽家・詩朗読の創始者	照井 栄三(てるい えいぞう)
18	南部紫紺染を再興伝承した人	藤田 謙(ふじた けん)
19	岩手美術界の指導者	五味 清吉(ごみ せいきち)
20	近代土木事業の先駆者	鹿島 精一(かしま せいいち)
21	身体障害者教育の父	柴内 魁三(しばない かいぞう)
22	医学博士、産婦人科医学者	久慈 直太郎(くじ なおたろう)
23	世界史学者・ロシア史の先駆者	煙山 専太郎(けむやま せんたろう)
24	実験物理学者	中村 儀三郎(なかむら ぎさぶろう)

25	参議院議員，北海道開発庁長官，松屋デパート社長	川村 松助(かわむら まつすけ)
26	盛岡市議会議員	宮 善次郎(みや ぜんじろう)
27	野球界の功労者，早稲田大学渡米チームの選手	獅子内 謹一郎(ししない きんいちろう)
28	盛岡市長	中村 謙蔵(なかむら けんぞう)
29	陸軍大臣	板垣 征四郎(いたがき せいしろう)
30	朝日新聞編集局長，評論家	伊東 圭一郎(いとう けいいちろう)
31	盛岡市長	小泉 多三郎(こいずみ たさぶろう)
32	盛岡市長	見坊 田鶴雄(けんぼう たづお)

NO1～24までの先人は盛岡先人記念館にも紹介されています。

単元名	【特別の教科 道徳における取組】 「アイヌ語と共に ～金田一京助～」	学年	3 学年
-----	---------------------------------------	----	------

(1) 目的

本校出身の先輩である「金田一京助」の生き方を理解し、よりよく生きていくための自分の生き方につなげる。

(2) 取組時期

10 月

(3) 教材

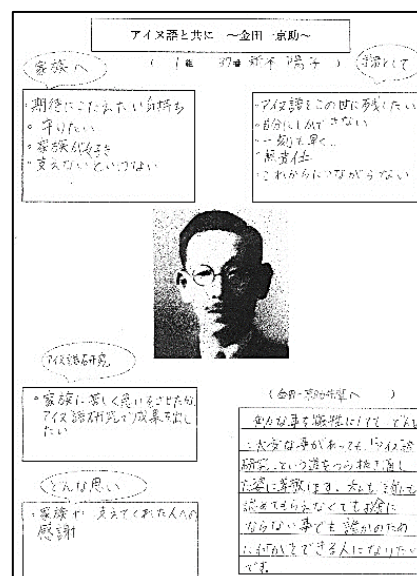
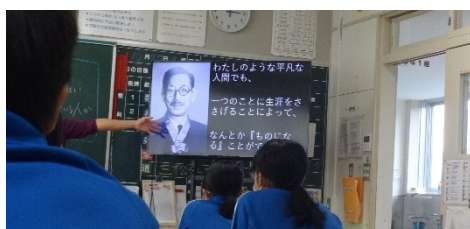
岩手県道徳教育
郷土教材集

「ふるさといわての心」中学校編(岩手県道徳教育研究会)

「アイヌ語とともに【金田一京助】」

(4) 授業の様子

「金田一京助」の家族に対する想いと、学者としてアイヌ語の研究する想いについて触れ、その上で、「もしも自分が京助だったら家族と研究のどちらを選ぶか考えさせた。また、研究することを決めた想いや、文化勲章を受賞した際の想いについても考えさせた。



5 成果と課題(○は成果，●は課題を表す)

- 今年度も先人教育全体計画に沿いながら，諸活動の中で先人教育を盛り込むことができた。
- 本校で意識している SDG s や防災教育とも関連付けながら取り組むことができた。
- 朝読書「盛岡の先人」を全校で取り組む期間を設け，3年間をかけて読むこととしたこと。
- 本校出身の先輩方(先人)に全校で学ぶ機会が設けられたこと。
- 各教科等における先人教育の取組の開発・拡大と計画的な配置，職員の理解等。

下橋中学校地区生徒会&復興教育スクール事業「地区調査活動2021 in 下橋」児童生徒アンケート結果

合計286人 ■ 中 3 77 ■ 中 2 58 ■ 中 1 83 ■ 小 6 65 参加人数（人）		自分から進んで「調査活動」ができた ■ あてはまる 57% ■ どちらかというにあてはまらない 36% ■ どちらかというにあてはまらない 5% ■ あてはまらない 1% 「自分から進んで『調査活動』ができた」児童生徒の割合は、肯定的な回答が93%となる。概ね積極的に活動できたことが結果となっている。	
自分から進んで「清掃活動」ができた ■ あてはまる 58% ■ どちらかというにあてはまらない 34% ■ どちらかというにあてはまらない 6% ■ あてはまらない 2% 「自分から進んで『清掃活動』ができた」児童生徒の割合は、肯定的な回答が92%となる。概ね積極的に活動できたことが結果となっている。		自分の地区をもっと知りたいと思った ■ あてはまる 53% ■ どちらかというにあてはまらない 34% ■ どちらかというにあてはまらない 9% ■ あてはまらない 4% 「この活動を通して、自分の地区をもっと知りたいと思った」児童生徒の割合は、肯定的な回答が87%となる。今回の活動が地域を知るきっかけとなった。	
自分の地区をより良くしたいと思った ■ あてはまる 70% ■ どちらかというにあてはまらない 25% ■ どちらかというにあてはまらない 3% ■ あてはまらない 2% 「この活動を通して、自分の地区をより良くしたいと思った」児童生徒の割合は、肯定的な回答が95%となる。今回の活動が地域に誇りを持つことに繋がった。			

今回の活動に参加した児童生徒の総数は286人（アンケート回答人数）。今回は、「地図作成」には6年生のみの参加としたが、小中連携による行事を行うことができたことが大きな成果である。

令和３年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

**地域や先人の生き方を学ぶこと
を通して、自身の生き方を見つ
め、生き方を考える児童・生徒
を育成する
～小・中学校の９年間の
育成を踏まえて～**

盛岡市立緑が丘小学校

目 次

先人教育全体計画	1
1 研究主題設定の理由	2
2 研究の目標	2
3 研究の基本的な考え方	2
4 取組の概要	
全 校「先人教育コーナー」の設置, 「先人給食週間」の実施	3
全 校「先人教育の組み立て 『カリキュラム・マネジメント』	3
第1学年「さけがもどる川」	3
第2学年「はくぶつかん たんけんたい」	4
第3学年「名人に学んで, ダンスでまちの人とつながろう」	5
第4学年「先人から学ぼう 『国語を愛した金田一京助』	6
第5学年「感じよう！先人たちのおくりもの」	7
第6学年「緑が丘に感謝プロジェクト」	8
5 成果と課題	8

盛岡市立緑が丘小学校先人教育全体計画

○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法

盛岡市の先人教育くめざす市民像＞…多くの先人を育んできた美しい盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び共に未来をつくる人
＜キャッチフレーズ＞

盛岡の子供たちに「夢」と「誇り」と「志」を

- ◇夢 将来に対する希望。実現したいという願い自分の目指す理想。
◇誇り 自分や自分の故郷に対する愛着。自信。
◇志 目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする。決意

キャリア教育の目標

○児童一人一人が自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を育む。

学校教育目標

「生き生きとしたみどりの子」

かしこい子
たくましい子
おもいやりのある子

先人教育の目標

- 「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望を持ち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。
○身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」がもてるようにする。

○児童の実態

- ・明るく素直であり、誰にでもあいさつをしようとする。
- ・清掃や給食などの当番活動に意欲的に取り組む。
- ・時間を守ることの意識にやや欠ける面がある。
- ・意欲的に学習するが、新たな課題を見つけたり身に付けた力を活用したりすることに不十分である。

○家庭・地域の実態

- ・緑が多く自然に恵まれた地域である。
- ・教育振興運動が盛んである。
- ・諸行事における協力が積極的である。
- ・教育への関心が高い家庭がある一方で、過干渉、放任など問題を抱えた家庭も少なくない。

総合的な学習の時間の目標

○探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

＜基盤とする「5つの力」＞ 聞く 話す あいさつ 返事 時間

本校のキャリア教育目標「自分らしい生き方について考える子ども」

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
めざす 子ども像	・盛岡の先人にかかわる人や土地について「興味・関心」を自らもつ子ども。 ・人や土地とのかかわりを通して、願いをもち、願いに向かって自分ができることをやりぬこうとする子ども。		・盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ子ども。 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して、自身を見つめ立てた目標に向かって努力する子ども。		・盛岡の中で、日本の中で、世界の中で生きる「夢」「誇り」「志」をもつ子ども。 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して自身を見つめ、もった夢や希望に向かって努力する子ども。	
生活科 ・総合的な 学習の時間	・「がっこうだいすき」みんなで通学路を歩こう。 ・「なつがやってきた」みんなのこうえんであそぼう。 ・「たのしいあきいっぱい」こうえんであきをさがそう	・どきどきわくわくまちたんけん ・みんなでつかう、まちのしせつ。	・「大好き緑が丘」名人に学ぼう	・盛岡のみりよくを伝えよう	・感じよう！先人たちのおくりもの	・感謝の気持ちを伝えよう
各教科	・さいてたのしもうむかしばなし(国) ・日本のうたをたのしもう(音)	・こんなのもみつけたよ(国)	・国語辞典を使おう(国) ・俳句を楽しもう(国) ・もっと知りたいみんなのまち(社) ・探してみよう昔の暮らし(社)	・岩手県の様子(社) ・受け継がれる伝統や文化(社) ・昔の人々の願いと努力(社) ・短歌、俳句に親しもう(国) ・伝統工芸の良さを伝えよう(国) ・季節の言葉(国) ・季節ごとの観察(理) ・郷土の音楽(音)	・やなせたかし(国) ・日常を十七音で(国) ・未来を支える食糧生産(社) ・未来をつくりだす工業生産(社) ・日本の音楽に親しもう(音)	・近代国家への歩み(社) ・戦争から平和へ(社) ・イーハトーブの夢、やまなし(国) ・今、わたしは、ぼくは(国) ・ともに生きる(家) ・日本や世界の音楽に親しもう(音)
特別の教科 「道徳」	・お正月 ・ふるさといわたの心「さけがもどる川」	・おらもちいしゃになる ・見つけたよ	・おらがそでてる～小田嶋熊吉～	・石っこけんさん	・太平洋のかけ橋「新渡戸稲造」 ・ペルーは泣いている ・日本のまんがの神様	・小川笙船 ・マザーテレサ ・奴隷解放の父リンカーン ・差し出し続けた大きな手
その他				子どもと話そう～「親子の架け橋・一筆啓上～」	みどりの太鼓引継ぎ	みどりの太鼓、引継ぎ、演奏、一里塚祭りへの参加、高松音楽祭への参加、学校行事
盛岡の先人			石川啄木	金田一京助 (大島高任)	新渡戸稲造	原敬 米内光政

＜全校で実行すること＞

- ・先人カレンダーの各教室への掲示
- ・盛岡の先人コーナーの設置＜職員室前＞
- ・先人記念館・原敬記念館・啄木記念館の見学等。
- ・みどりの子サポーターの皆さんへの感謝の手紙（PTA役員・上田交番・スクールガード・民生児童委員・主任児童委員・町内会長・学童クラブ指導員・児童センター指導員・緑が丘黒石野商工業会・図書事務・図書修理ボランティア・読み聞かせサークルふくごろう・学びたいむサポーター・生け花ボランティア・学校医・学校薬剤師）
- ・先人給食週間の実施時における、昼の放送での啓蒙、校内掲示、啓蒙行動。

学校名	盛岡市立緑が丘小学校	児童数	637 名
研究主題	地域や先人の生き方を学ぶことを通して、自身の生き方を見つめ、生き方を考える児童・生徒を育成する～小・中学校の 9 年間の系統性を踏まえて～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育は「確かな学力(知)」「豊かな心(徳)」「たくましい体(体)」の 3 つの力をバランスよく育むことを目指している。その 3 つの力を伸ばすための根幹の「学ぶ意欲・目的」を高めていくために重要な役割を果たすものの 1 つとして「盛岡市の先人教育」を位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子供たちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

そこで黒石野中学校区では、ブロック研究会での授業研究会、中学校教員による小学生への授業指導、また、児童生徒理解のための情報交換、中学生徒会主体の挨拶運動など、小中連携の様々な取組を通して、また学校区としての「先人教育」の取組においては「黒石野中学校区先人教育全体計画」を立て、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、目標及び重点や具体的な取り組みを共有し、各学校での実践を通して、目指す姿に近づきたい。

この「先人教育」を充実させることは、本校の教育目標である「生き生きとしたみどりの子」「かしこい子」「たくましい子」「思いやりのある子」の姿の実現に重なることから、この主題を設定した。

2 研究の目標

「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。

身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」をもてるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ア 黒石野中学区での小中 9 年間の系統性を大切にした小学校段階での実践の充実
- イ 教科との関連性を大切にした先人教育の実践推進
- ウ 先人教育の視点と教科・道徳・総合的な学習の時間の関連を図った指導を実践的に推進する。

(2) 小中連携

- ア 黒石野中学校区 3 校共通主題による実践
- イ 各校の実践内容を基に、先人教育全体計画の改善を図る。

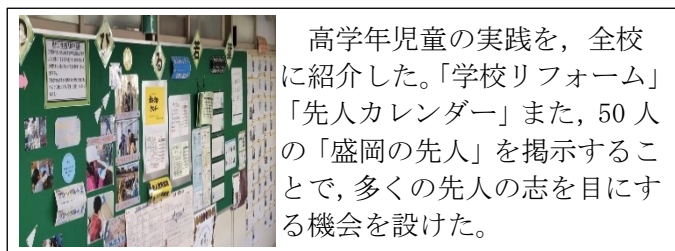
(3) 取組の内容

- ア 授業実践
- イ 先人教育環境の整備「先人教育コーナー」の設置
- ウ 先人教育関連行事への全校参加…「一筆啓上」への参加
- エ 先人給食週間の実施

4 取組の概要

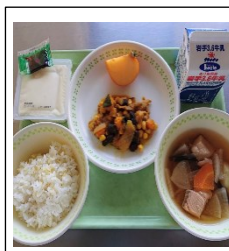
取組名	「先人教育コーナー」の設置・「先人給食週間」の実施	学年	全校
-----	---------------------------	----	----

○「先人教育コーナー」の設置



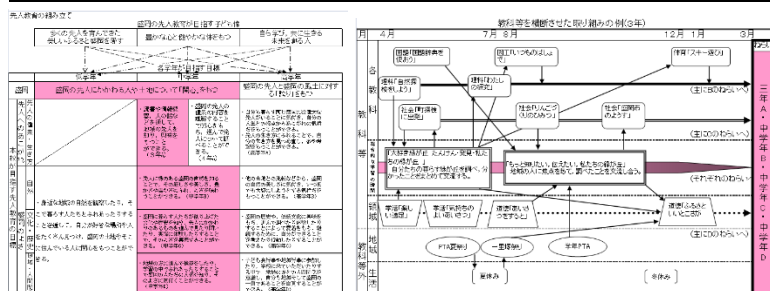
高学年児童の実践を、全校に紹介した。「学校リフォーム」「先人カレンダー」また、50人の「盛岡の先人」を掲示することで、多くの先人の志を目にする機会を設けた。

○「先人給食週間」の実施



10月、1週間先人にちなんだ給食を続けた。
金田一京助が柿好きであると児童が調べたことから、デザートに採用されるなど、学習が生かされた給食だった。

取組名	先人教育の組み立て「カリキュラムマネジメント」	学年	全校
-----	-------------------------	----	----



各学年の目指す目標を明らかにし、教科等を横断させた取組の例を学年ごとに明らかにし、全体で共有することで、1年間を見通したり、6年間を見通したりして、全校一丸となって実践を積み重ねることができる。
←目指す学年目標と教科横断取組例

単元名	主題名 小さな命も大切に 教材名 さけがもどる川 (岩手県道徳教育研究会著「ふるさといわての心」)	学年	第1学年
-----	---	----	------

(1) ねらい

中津川という子供にとって身近な川に戻るさけの教材を基に、人と土地との関わりから身近な自然に親しみ、小さな生き物にも優しい心で接しようとする通して、願いに向かって自分ができることをやりぬこうとすることができる。

(2) 指導計画

- ① 価値についての意識を高め、自分の初めの考えを明らかにする。

生き物の命を大切にするにはどんな心が大切なのか。

- ② 教材「さけがもどる川」を読む。
- ③ 教材について話し合い、価値について考える。
○さけの赤ちゃんを川へ帰すとき、どんな気持ちだったか。
○中津川のごみを見た時、どんな気持ちだったか。
◎戻ってきたさけを見た時、どんなことを考えたか。
- ④ 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める。
- ⑤ 本時の振り返りを書く。
- ⑥ 教師の説話を聞く。

〈学習の振り返りから〉

さけがよろこんでくれるように、ごみひろいをがんばったとおもいます。さけをだいじにして、クラスの子や、おとうさんおかあさん、ちいきのひと、いろいろなひとがだいじにしているんだなおもいました。

〈活動の様子〉

T: 戻ってきたさけを見た時、まさこさん(主人公)はどんなことを考えたと思いますか？
C: 元気に戻ってきてうれしかったです。
C: また会えてよかったと思いました。
C: まさこさんは、お世話を頑張ってよかったなと思いました。
T: 川をきれいにしたのは、まさこさんだけかな？
C: みんなです。
C: 学校の友達も。
C: 幼稚園の子もいたと思います。
C: 地域の人もいたと思います。

もりおかにこんな川があったのはじめてでした。ぼくも、川にごみをすてないようにしたいです。

(3) 考察

- ・自分たちの身近なところにあるさけが戻ってくる川があることを知り、「自分たちの住んでいる盛岡にすごいところがある」と感じ、自分たちの住む土地に愛着をもつ児童が多くいた。
- ・さけなどの生き物を大切にしたいという思いや願いをもち、これからの生活を考えることができた。

単元名	はくぶつかんたんけんたい	学年	第2学年
-----	--------------	----	------

(1) ねらい

博物館の見学を通して、岩手県内の歴史や先人にかかわる展示物やそこで働く人のよさを捉え、域には様々な魅力があることに気付いたり、公共施設を大切に利用したりしようことができるようにする。

自分たちの住んでいる地域に愛着をもち、岩手のよさを伝え、ふるさとを愛する心を育むことができる。

(2) 指導計画

段階	学習内容
博物館を使おう	① 公共施設に行った経験を話し合い、博物館を利用するためのルールやマナーについて確認し、出かけるための準備をする。 ② 博物館で知りたいことを考えるとともに、バスの乗り方について話し合ってから確認する。
博物館に行こう	③ 県立博物館に行き、博物館の展示物について調べたり、展示の工夫や来館者のための工夫を調べたり、施設の方にインタビューしたりする。
博物館のことをまとめよう	④ 見付けたこと、気付いたことを整理してまとめ、博物館新聞を作成する。 ⑤ 記録メモや学習新聞を基に、博物館の良さや働きについて話し合う。

(3) 活動の様子

- ① 公共施設について話し合った際、幼稚園や学校、図書館といった身近なものから、先人記念館、原敬記念館といった、岩手の先人に関わる施設を知っている子供がいた。記念館や博物館等に行ったことのある子供は、学級のおよそ三分の一程度であった

今回は、コロナ禍により休館中の施設が多く、見学受け入れ可能であった県立博物館に出かけることとなった。

- ② 館内での見学では、自然物や化石等への興味ももちろんあったが、昔の建物のジオラマや、民俗文化財への興味関心も高く、グループに分かれて熱心にメモをとる様子が見られた。

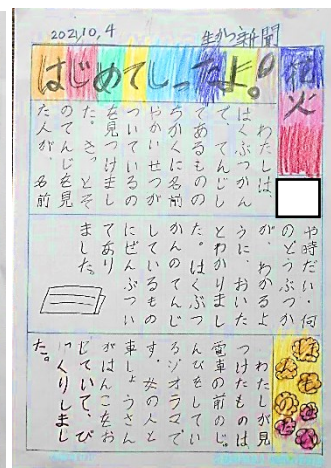
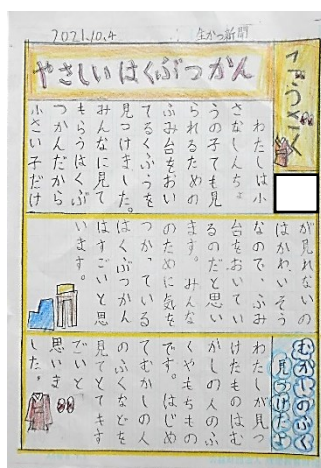
見学中的子供からは、「今の暮らしとつながっているものがあるって面白い。」「機械がなく道具も少ない中で、これだけのものを作るなんてすごい。」などという意見があった。また、館内のバリアフリーや、展示物をよりよく詳しく見せるための工夫を説明してくれる学芸員さんの様子から、「たくさんの人に見てほしい、伝えたいということが伝わってくる。」という意見があった。

- ③ 見学後のメモを基に、子どもたちは何を伝えるのかについて話し合った。展示物の紹介、展示のための工夫、来館する人のための工夫という視点に絞り、はがき新聞を作成することとなった。

- ④ 学習後の振り返りでは、昔のものが大切に保管されていることで、今の暮らしとの関わりや影響に気付くことができた子どもが多かった。また、この学習を機に、家族に紹介し、家族でまた来館したいと話すが多かった。

(4) 考察

- ・自分たちの生活の身近に、昔の「人・こと・もの」とつながることのできるすばらしい場所があることに気付くことができた。
- ・昔のもの、昔から続いていること等のよさを、実感をもって味わうことができた。
- ・自然や動植物、文化財を大切に守っている人たちがいること、そのおかげで生活が豊かであることに気付くことができた。
- ・県立博物館には多様な展示があるため、子どもたちの興味は多岐にわたる。そのため、ねらいに沿った活動に絞ることが難しい。
- ・グループでの活動のため、子どもたちは自由に見て回ることができた。しかし、そのために展示物の詳しい解説や特に見てほしいところについて、指導者が十分に把握しきれなかった。



単元名	名人に学んで、ダンスでまちの人とつながろう	学年	第3学年
-----	-----------------------	----	------

(1) ねらい

地域で活動をしているダンス名人の方と関わり、ダンスを教えていただいたり、思いに触れたりする活動を通して、地域に住む名人の生き方を学び、自分のこれからの生活に生かすことができる。

(2) 指導計画

月	学習活動
9月	- 地域にどんな名人がいるか調べる。 - 調べた情報を整理し、どの名人と関わるか決める。 - 地域に住むダンス名人に技を見せていただき、一緒に踊る。
10月	- 教えていただいたダンスを練習し、オリジナルダンスを作る。 - まちの人と踊れるダンスになったか、名人に見てもらいアドバイスをいただく。
11月	頂いたアドバイスを基にダンスを見直し、改善する。
12月	まちの人とダンスを踊る会を計画する。
1月	- まちの人とダンスを踊る会を開く。 「一緒に楽しむ」という目的が達成されたか、会の様子を基に振り返る。

(3) 活動の様子



(4) 考察

- ・実際にどのぐらいの名人がいるのかを調査したことで、自分たちのまちを見直し、素敵な名人がたくさんいることに気づき、まちのよさを再発見することができた。
- ・実際に来校していただき、一緒に踊るなど体験活動を設定したことで、ダンスの楽しさを実感するだけでなく、名人とも関わりを深め、親しみをもつことができた。
- ・最終的な目的をイメージすることが、3年生段階だと困難さを感じる子もいた。小さな目標も設定し、達成感を味わいながらゴールにたどり着くことができるような単元を計画していく必要がある。

単元名	感じよう！先人たちのおくりもの	学年	第5学年
-----	-----------------	----	------

(1) ねらい

盛岡の先人がどんな思いをもってどんなことを成し遂げたのか、業績や生き方を学ぶという探究的な学習を通して、課題の解決に向けて必要な知識・技能を身に付ける。先人の生き方から学んだことを生かして主体的にできることを考え、実行・発信する力を養う。

(2) 指導計画

① 1年間のおおまかな流れ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「盛岡の先人を知ろう」 ・盛岡の先人について調べよう ・先人の生き方について考えよう				「先人との関りを深めよう」 ・先人の功績から広げられるものはないかな。 (例) 物作り, 追体験, カルタ等				「受け継がれてきた事の大切さを広めよう」 ・市内外の方へ ・記念館で			

② 活動の実際

【1学期】

- ・盛岡の先人（新渡戸稲造、金田一京助、米内光政、原敬、石川啄木）の業績を調べた。
- ・調べたい先人を選び、インターネットや副読本等を利用し個人新聞にまとめて紹介した。

【2学期】

- ・5人の先人の中から1人に絞り、さらに詳しく調べた。
- ・インターネットだけではわからないことがたくさんあるので、原敬記念館の館長さんをゲストに招いて学ぶ機会を設定した。
- ・原敬の「宝積」（見返りを求めずに人のためになることをする。）という考え方を学んだ。
- ・見返りを求めずに学校のためになることをしようと考え、全校のみんなのためになることを考えた。6つのチームに分かれて活動を行った。



原敬記念館の館長さん

(ア) 1年生が雨天時にも室内で遊べる物づくり
→1年生にアンケートをとって卓球セットを手作りしてプレゼント



(イ) グラウンドの整備
→いつも凸凹になっているグラウンドを整備して水まき。冬は雪かきも行った。



(ウ) トイレ掃除
→トイレをきれいにするために掃除をし、芳香剤を手作りしてにおいを改善した。



(エ) ペンキ塗り
→遊具や体育館の渡り廊下、家庭科室の流し台の蓋など、ペンキがはがれているところを修繕した。



(オ) 昇降口の掃除
→昇降口のガラスや床のシミ取りをした。



(カ) 図書室用の靴箱を作成
→靴を脱いで入る図書室用の靴箱を作成した。



【3学期】

- ・原敬の業績と共に、自分たちが行った活動を放送やポスターなどで全校の皆さんに紹介した。

(3) 考察

- ・盛岡の先人の生き方から学び、その生き方から学んだことを自分たちの生活にも生かし、考え方をなぞることで先人の存在を身近に感じながら実行することができた。
- ・コロナ禍に寄り学校外に出て学びを広げることが難しかったが、ゲストティーチャーを招いたり学校内でできることを考えたりすることで活動を充実させることができた。
- ・学校の図書室に先人に関わる本が少なかったため、市立図書館などを利用することも考えながら資料収集の在り方を検討したい。

単元名	緑が丘に感謝プロジェクト	学年	第6学年
-----	--------------	----	------

(1) ねらい

5年生の時は学校のためにできることを行ってきたが、6年生では範囲を広げ、これまでお世話になった地域のためにできることを考え、実行・発信する力を養う。

緑が丘の人との関わりを通して、緑が丘の人の温かさや街のよさ再確認し、緑が丘の人々に感謝の気持ちを伝えることを考え、実行・発信する力を養う。

(2) 単元構成

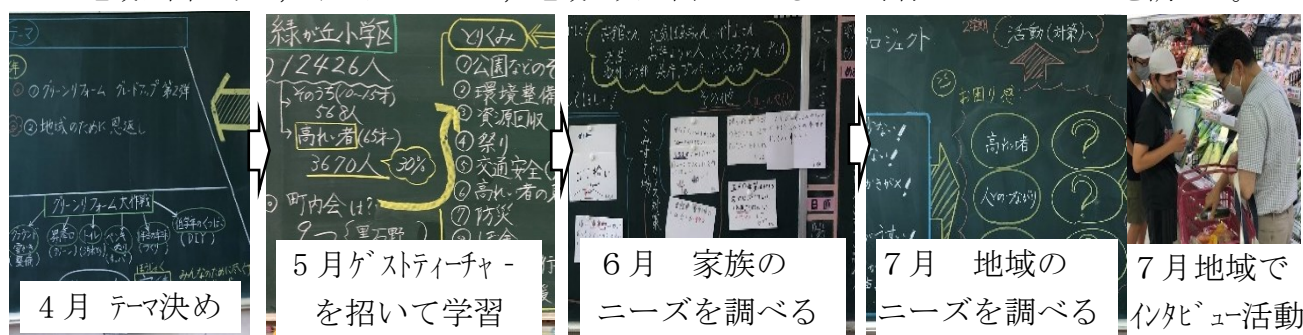
① 1年間のおおまかな流れ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「地域のニーズを知ろう」 ・地域の現状を知ろう ・地域のニーズを知ろう				「地域のために自分たちにできることを考えよう」 ・地域のためにできることを何か (例) 清掃・イベント・ポスター等					「感謝の気持ちを伝えよう」 ・地域の方へ		

② 活動の実際

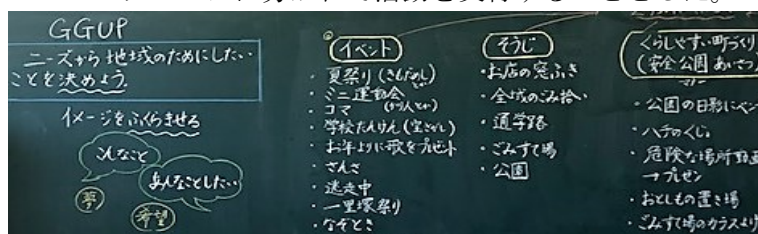
【1学期】

- ・ゲストティーチャー（村上米穀店の村上さん）を招いて、地域の現状を知った。
- ・地域に出かけて、インタビューし、地域の人が困っていることや行ってほしいことを調べた。



【2学期】

- ・地域のニーズを知った上で、自分たちが地域のためにできることは何か考えた。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を加味して、できる活動を精選した。イベントを行う計画があったが新型コロナウイルス感染症の広がりにより計画から削除した。
- ・地域の清掃、よりよい町づくりを呼び掛けるポスター作り、地域の人が喜ぶプレゼント作りの3つのグループに分かれて活動を実行することとした。



→ 清掃グループ・ポスターグループ・プレゼントグループに分かれて、活動を計画、実践、振り返りを行う。→

5 成果と課題

- 3校共通のテーマをたて、小中9年間を見据えた全体計画をもとに、系統立てて指導を考えることができた。特に、素地として小学校段階でつけるべき力に焦点を絞って活動を進めることができた。
- これまでは、「総合的な学習の時間」「道徳」「先人学習」そのものを学びの対象とすることが多かったが、高学年では、学校内や地域における課題から、自分が具体的にどのように関わっていくかまで考え具体的に行動することができた。夢・誇り・志が具現化する良さを実感し努力し続けようとする心を養うことができた。
- ▲ 3校共通のテーマをもとに、学校単位で行っている活動について、今後も中学校と連携を図りながら、交流する機会をもつなど、9年間の系統性を生かした指導の在り方を相談し続けながら、時合に沿った指導の在り方やカリキュラムを修正する必要がある。
- ▲ 学年毎の先人学習は、毎年継続して同じテーマで進める学年と単年ごとにテーマを変える学年とがある。柔軟な運用は望ましい面はあるが、地域の人との繋がりなど、大切にしなければいけない関係などについては、年度をこえて継続・発展的な単元を考える必要がある。

令和３年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

**地域や先人の生き方を学ぶこと
を通して，自身の生き方を見つ
め，生き方を考える児童・生徒
を育成する
～小・中学校の９年間の
育成を踏まえて～**

盛岡市立高松小学校

目 次

先人教育全体計画	1
1 研究主題設定の理由	2
2 研究の目標	2
3 研究の基本的な考え方	2
4 取組の概要	
第1学年「たのしいあき いっぱい」	3
第2学年「ドキドキわくわく まちたんけん」	4
第3学年「石川啄木の短歌に親しもう」	5
第4学年「お祭りについて調べよう」	6
第5学年「盛岡のよさ発見『盛岡探検隊』」	7
第6学年「未来へ～ふるさとを見つめよう～」	8
5 成果と課題	9

令和3年度 先人教育全体計画

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・小学校学習指導要領

学校教育目標

- (1) 校訓 「やりぬく心」
- (2) めざす校風 「よく学び よく遊ぶ」
- (3) めざす子ども像
 - 思いやりのある子
 - 考える子
 - 明るく元気な子

児童の実態

- 明るく素直で、道徳的判断力もあるが、全体的に受け身である。
- 自尊感情が低い。
- 粘り強く一つのことに取り組む力が弱い。

盛岡市の先人教育

○めざす市民像

多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び、共に未来を創る人。

○キャッチフレーズ

盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を

- ◇夢 将来に対する希望。実現したいという願い。自分のめざす理想。
- ◇誇り 自分や自分のふるさとに対する愛着。自信。
- ◇志 目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする。決意。

キャリア教育の目標

- 子ども一人一人が自分や集団の役割に意欲的に取り組み、未来への夢や目標に向かって努力する自立した人間としての資質や能力の育成。

総合的な学習の時間の目標

- 身近な地域や自然、文化と人とのかかわりについて探究的な学び、多面的に追究する方法を身に付け、自ら課題を追究し続け、仲間と協力して課題を解決するとともに、よりよい生活を創り出そうとする。

<先人教育の目標>

○「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。

○身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」がもてるようにする。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
めざす子ども像	・「ひと・もの・こと」との関わりを通して、願いをもち、やりぬこうとする子ども ・地域のよさに気付き、地域のお気に入りをもてる子ども		・「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績を学ぶことを通して、自分自身を見つめ、目標を立て、それに向かって努力しようとする子ども ・身近な地域や郷土について、自分なりの学び方で捉え、「愛着」や「誇り」がもてる子ども		・「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする子ども ・身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」がもてる子ども。		・先人カレンダーの掲示 教室 ・盛岡の先人コーナーの設置 図書室 ・先人記念館・原敬記念館・啄木記念館の見学・出前授業等の活用 図書室廊下 ・スクールガードさんへの感謝の手紙 ・啄木短歌 児童昇降口
生活科・総合	・みんなであそぼう ・みんなのこうえんであそぼう	・どきどきわくわくまちたんけん ・みんなであそぼう ・みんなのせうまのしせう	・ぼくらは高松はかせ	・岩手のよさはおもいやり ・「お祭りについて」	・盛岡のよさ発見「盛岡探検隊」	・未来へはばたく「復興教育」「キャリア教育」	
各教科	国・あつまれふゆのことば 国・きいてたのしもうわかしばなし	国・こんなものみつけけたよ	国・国語辞典を使おう 国・俳句を楽しもう(啄木カルタ) 社・もっと知りたいみんなのまち 社・探ってみよう昔のくらし	社・岩手県の様子 社・受け継がれる伝統や文化 ・昔の人々の願いと努力 国・短歌・俳句に親しもう ・伝統工芸のよさを伝えよう ・季節の言葉 理・季節ごとの観察 音・郷土の音楽	国・やなせたかし ・日常を十七音で 社・未来を支える食糧生産 ・未来をつくり出す工業生産(自動車)	社・近代国家への歩み 社・戦争から平和へ 国・イーハトーブの夢やまなし 国・今、わたしは、ぼくは家・ともに生きる	
特別の教科 道徳	・お正月	・自分のプロフィール ・おもしろいことになる		・石っこけんさん	・太平洋のかけに ・植物とともに ・ペルーは泣いている	・小川笠船 ・マザーテレサ ・奴隷解放の父リンカーン ・差し出し続けた大きな手	
その他	・地域の祭り ・行事への参加	・地域の祭り ・行事への参加				学習旅行(岩手県の復興の歴史)	
盛岡の先人			石川 啄木	金田一 京助(大島高任)	新渡戸 稲造	原 敬 米内 光政	

1 研究主題設定の理由

学校名	盛岡市立高松小学校	児童数	368 名
研究主題	地域や先人の生き方を学ぶことを通して、自身の生き方を見つめ、生き方を考える児童・生徒を育成する～小・中学校の9年間の育成を踏まえて～		

盛岡市の学校教育は「確かな学力(知)」「豊かな心(徳)」「たくましい体(体)」の3つの力をバランスよく育むことを目指している。この3つの力を伸ばすための根幹の「学ぶ意欲・目的」を高めていくために重要な役割を果たすものの一つとして「盛岡の先人」を位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

黒石野中学校区では、ブロック研究会での授業研究会、中学校教員による小学生への授業指導、また、児童生徒理解のための情報交換、中学生徒会主体の挨拶運動など、小中連携の様々な取組を行っている。さらに学校区としての「先人教育」の取組においては、「黒石野中学校区先人教育全体計画」を立て、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、目標及び重点や具体的な取組を共有し、各学校での実践を通して、目指す姿に近づきたいと考える。

本校は、地域に根ざした学校づくりと、郷土の復興・発展を担う子どもの育成を目指し、「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」を育むことを学校経営の基本方針の一つとしている。校訓は「やりぬく心」であり、目指す子ども像を「思いやりのある子」「考える子」「明るく元気な子」としている。そこで、先人教育を充実させることにより、校訓・本校で目指す子ども像に迫っていこうと考えた。地域のことを学んだり、先人たちの功績や生き方について理解したりする機会を意図的に与えることにより、郷土を愛し、自分の将来に夢や希望をもち、復興や社会の発展に関っていこうとする児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」がもてるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ア 黒石野中学校区での小中9年間の系統性を大切にした小学校段階での実践の充実
- イ 教科との関連性を大切にした先人教育の実践推進
- ウ 先人教育の視点と教科・道徳・総合的な学習の時間の関連を図った指導を実践的に推進する。

(2) 小中連携

- ア 黒石野中学校区3校共通主題による実践
- イ 黒石野中学校、緑が丘小学校の実践内容を基に、先人教育の全体計画の改善を図る

(3) 取組の内容

- ア 授業実践
- イ 先人教育環境の整備（図書館における「先人コーナー」「いわてコーナー」設置、昇降口前の「啄木コーナー」の掲示、各教室の「先人カレンダー」掲示、「啄木かるた」の実施）
- ウ 行事や教科との関わりの取組（「石川啄木短歌」への応募、「先人ゆかり給食」に合わせて行う「先人放送」、「一筆啓上」への応募）
- エ 全校朝会での先人紹介

4. 取組の概要

単元名	「たのしいあき いっぱい」高松の池や公園を たんけんしよう	学年	第1学年
-----	-------------------------------	----	------

(1) ねらい

自分たちの身近にある高松の池や高松公園には、どんな生き物がいるのか、公園はいつ頃できたのかなどについて地域の方に教えていただくことを通して、自分たちの住む地域のよさに気付くことができる。

(2) 指導計画

段階	学習内容（時数）
第1次	・公共の場所を利用する際のルールやマナーを確認し、たんけんする計画を立てる。（1）
第2次	・高松の池をたんけんしながら、地域のことに詳しい人にお話を聞く。（1） ・高松公園で遊んだり、木の実を拾ったりする。（1）
第3次	・高松の池や高松公園をたんけんして気付いたことを、カードにまとめる。（1）

(3) 活動の様子

ほとんどの児童が高松の池や高松公園を利用しており身近な場所ではあったが、高松の池のことに詳しい方のお話を聞く機会を設けた。



70ねんまえからあったのがわが家です。
まえにけいりばじょうがあったのはわかりませんでした。
かみかいたのはわかりませんでした。



わたしはとりか500ぴきから600ぴきとおもわ
なかつたのも、とたか、まつのさくらのさやしいのことや
とりのことなどをしりたいです。

さくらの木110ねんまえにさいてるこ
とがわかつてひぐくりしました。

(4) 考察

- ・ゲストティーチャー（地域に住むスクールガードの代表の方）を招いて、高松の池のことについて詳しいお話を聞くことができた。高松の池にはいろいろな生き物が住んでいたりやってきたりすることや、高松公園の名前の由来、桜の木が植えられた時期など様々なことを聞くことができ、高松公園や高松の池に対する愛着が増したようであるが、学習のねらいに沿った人材の発掘の仕方や活用の仕方について考えたい。
- ・高松公園内で友達と仲良く秋さがしをすることで、自然に触れたり季節の遊びを楽しんだりすることができた。

単元名	どきどきわくわく まちたんけん	学年	第2学年
-----	-----------------	----	------

(1) ねらい

身近な地域の様々な場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりに気づき、地域には様々な場所があり様々な人がいることや、地域の場所や人に親しみをもち、適切に接したり、安全に気を付けて生活したりできるようにする。

(2) 指導計画

段階	学習内容（時数）
第1次	・地域のお気に入りの場所を話し合う。地域の方に、高松地域のことを聞く。（2）
第2次	・探検に行きたい場所を話し合う。（1） ・グループごとに計画を立てる。（1） ・ルール、マナーを確認し、準備をする。（1）
第3次	・グループごとに探検をする。（2）
第4次	・気付いたことを記録する。（2） ・自分たちが気付いたことを伝え合う。（1）

(3) 活動の様子

第1次で、拡大マップに自分たちのお気に入りの場所をまとめて紹介し合った。また、地域の方をゲストティーチャーに招き、身近な地域の方に、高松地域のことを聞くことによって、さらに「高松のすてき」を見付けたいという意欲を高めることができた。



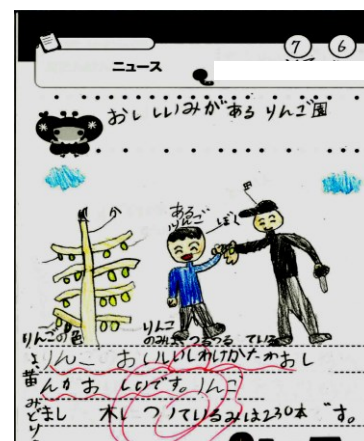
【児童の振り返り】

- ・高松のことがいっぱいわかりました。高松には、私が知らないすてきなばしょがたくさんあるので、びっくりしました。おうちの人にも教えてあげたいです。
- ・小原さんに、たくさん教えてもらってよかったです。みんなで高松公園にいて、くわしくしらべてみたいです。

自分たちが、探検してみたい場所をきめ、グループごとに計画を立てた。自分たちが普段過ごしている高松地域であるが、話し合っていく中で、さらに知りたいという思いをもつ児童が多く、家でも聞いてみたいと話す児童も出てきた。実際の探検では、地域の方にお世話になりながら、実施することができた。

(4) 考察

- ・ゲストティーチャーを招いて高松地域のことを聞いたことは、児童の興味関心を高め、もっと学習してみたいという意欲を高めることにつながり有効であったが、地域の方との連絡・調整の仕方について考えたい。
- ・興味・関心に沿ってグループ活動をさせたことや、探検に行った場所で、地域の方と触れ合ったことは、自主的に活動する基礎をつくるよい機会となった。



単元名	石川啄木の短歌に親しもう！	学年	第3学年
-----	---------------	----	------

(1) ねらい

盛岡の先人である「石川啄木」の生き方や業績などについて学び、盛岡の先人や風土の素晴らしさについて気付くことができる。

(2) 指導計画（10 時間）

①オリエンテーション (2 時間)	・先人カレンダーで紹介されている「石川啄木」を取り上げ、「啄木カルタ」を体験することを通して、石川啄木の生涯や業績に興味をもたせ、学習計画を立てる。(2 時間)
②石川啄木について調べる。 (6 時間)	・副読本「盛岡の先人」やインターネットなどから石川啄木の生涯や業績について調べ、分かったことを交流し合う。(4 時間) ・分かったことをカードにまとめる。(2 時間)
③短歌作りに挑戦する。 (2 時間)	・「啄木カルタ」を使って、「5・7・5・7・7」のきまりを確認し、短歌を作る。(1 時間) ・作った短歌を友達と紹介し合う。(1 時間)

(3) 活動の様子

- ① 先人カレンダーで紹介されている「石川啄木」と歌碑の写真を提示した後「啄木かるた」を紹介し、グループごとにかかるた遊びをした。子どもたちは、石川啄木や短歌に興味を示し、調べ学習の課題作りのきっかけとなった。
- ② 石川啄木は「どんなことをした人なのか」を中心に啄木の生涯や業績について副読本やインターネットなどを使って調べた。
- ③ 代表的な作品を取り上げ、短歌の意味を考えることを通して、啄木の故郷を懐かしむ気持ちや想いに気付くことができた。
- ④ 「啄木かるた」を参考にしながら、思い思いに短歌作りに取り組んだ。感じていた子どもも、指を折り音の数を唱えながら言葉を選択したり、修正したりしながら、短歌作りに挑戦していた。

＜活動の振り返り＞

石川たく木は、ふる里のしぶたみ村や岩手のことを大切に思っていることが分かりました。それは、たく木の作った短歌には、ふる里をテーマにした作品が多かったからです。

わたしも、たく木のように自分が住んでいる地いきのいいところをたくさん見つけていきたいです。



(4) 考察

- ・「啄木かるた」を導入で活用したことは、石川啄木や短歌に興味をもたせるうえで有効であり、体験活動を適宜取り入れた方が実感を伴って理解できると考える。
- ・石川啄木の生涯を調べたり、短歌の意味を考えたりすることを通して、自分たちの郷土のよさについて考える機会となったが、調べ学習においての情報収集が難しかった。

単元名	お祭りについて調べよう（総合的な学習の時間）	学年	第4学年
-----	------------------------	----	------

(1) ねらい

盛岡周辺の地域に伝わるお祭りについて調べ、内容や由来等について知ることにより、ふるさとのよさを知り、故郷への愛着を育むとともに、地域の伝統を引き継いでいこうという心情を育む。

(2) 指導計画（25 時間）

段階	学 習 活 動	時数
第1次	○オリエンテーション ○地域のお祭りについて知っていることを出し合い交流し、調べたいお祭りを決める。	3
第2次	○決めたテーマについて調べる。（インタビュー、インターネット等） ○調べた内容について新聞をつくり、まとめる。	10
第3次	○「さんさ祭り」について、学習発表会で発表する。 ・音楽劇「鬼の手形」（さんさ祭りの由来のお話） ・さんさ踊りの発表 (1 番統合さんさ、2 番七タくずし、3 番栄夜差踊り、4 番福呼踊り)	12

(3) 活動の様子

＜児童の主なテーマ＞	
○さんさ祭り	内容・由来
○八幡宮のお祭り	
○舟っこ流し	衣装や踊り
○チャグチャグ馬コ	
	楽器やリズム・歌等

＜児童の振り返り＞
さんさ踊り、チャグチャグ馬コには、ちゃんと由来があって、昔の人々の願いなどがこめられてこれらの行事が生まれたことが分かり、「わたしもちゃんと大切に守って引きついでいきたいな。」と思いました。わたしもさんさおどりに出てみたいと思いました。2年間お祭りが中止になったけど、がんばろうと思いました。

＜新聞でのまとめ＞

(4) 考察

- ・2年間様々なお祭りが中止だったので、導入ではお祭りについての記憶が薄く、関心も薄かったが、この活動を通して地域理解やふるさとへの愛情が深まった。
- ・地域のお祭りの由来や内容等について調べることで、それぞれのお祭りの意味や伝統について知ることができ、関心が高まった。
- ・調べるだけでなく、実際に由来について学習発表会で表現したり、さんさ踊りを全員で覚えて踊ったりすることにより、伝承された踊りを踊る楽しさを知るとともに、「自分たちもお祭りに出てみたい。」「伝統をしっかりと引き継いでいきたい。」という思いが広がった。

単元名	盛岡のよさ発見「盛岡探検隊」	学年	第5学年
-----	----------------	----	------

(1) ねらい

盛岡の先人である「新渡戸稲造」の生き方や考え、業績などについて学び、盛岡の先人や風土の素晴らしさに気付くことができる。自ら課題をもち、探究的な学習を通して課題を解決するとともに、仲間と協力してよりよい生活を創り出そうとする態度を養う。

(2) 指導計画

月	学 習 活 動 (時数)
7 月	・オリエンテーション (1)
8 月	・副読本「盛岡の先人」から先人について学ぶ。(2)
10 月	・「新渡戸稲造」について自分の課題をもち、調べたことをパソコンを使ってレポートにまとめる。(10)
11 月	・これまで調べてきた中で特に印象に残ったことを寸劇などにして、学習発表会で発表する。(10)
	・新渡戸稲造の生涯・思想について親子で話し合い、「一筆啓上」に感想を書く。(各家庭)
	・新渡戸稲造についてまとめたレポートを発表し、感銘を受けたことや自分の今後の生き方で参考にしたいことを交流する。(2)

(3) 活動の様子

- ① 副読本「盛岡の先人」を読み、生い立ちや業績を調べていたが、世界的な活躍をした先人で遠い存在という印象であった。主にパソコン操作に興味注がれていた。
- ② 学習発表会で発表することになり、生い立ちや時代背景、人柄がしのばれるエピソードや著書「武士道」について張り切って詳しく調べ直した。
- ③ わんぱくだった幼少期や向学心あふれる姿など、役になりきって演じたり、それを互いに見合ったりすることで親しみや共感する気持ちが生まれた。
- ④ 新渡戸稲造の生涯・思想について親子でも話し合い、「一筆啓上」に感想を書いたり、自分の生き方について考えたりした。

・新渡戸博士は、貧しい人々のために夜学校を建てたり、武士道を書いたり、すばらしい功績を残していました。私も助けが必要な人に手を差し伸べたいです。(児童の振り返りから抜粋)



学習発表会に向けて練習をしている様子

(4) 考察

- ・総合で学習した後、学習発表会で保護者に発表する機会を設けた。そのため、本人を演じたり、互いに見合ったりしながら、博士の生涯や業績、生き方について、より身近に、深く理解することができた。「一筆啓上」の取組もあり、親子で新渡戸稲造の生き方について話し合う機会をもてたのは、有意義だった。
- ・今の時代に「武士道」を理解させることは難しかった。今年はコロナ禍で先人記念館に行くことができなかったこともあり、見学学習で当時の生活や意識・考え方について直接触れさせ学ぶことの大切さを痛感した。

単元名	未来へはばたく～ふるさとを見つめよう～	学年	第6学年
-----	---------------------	----	------

(1) ねらい

原敬や米内光政の生涯や業績について学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の生き方を考えることができるようにする。

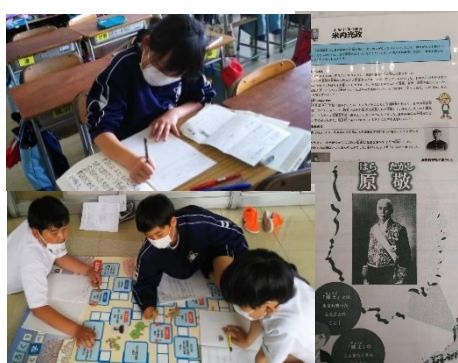
(2) 指導計画 (20 時間)

① オリエンテーション	・先人カレンダーから、盛岡の先人5人について知っていることを交流し合い、原敬と米内光政を中心に学んでいくことを知る。(1)
② 原敬・米内光政について調べる	・原敬記念館、先人記念館を見学する。(4) ・自分の調べたい先人の生涯や業績について調べる。(4) ・調べたことを交流し合い、自分の課題をもつ。(1) ・自分の課題について調べて分かったことをレポートにまとめる。(8)
③ レポートを読み、交流し合う	・レポートを読み合い、感じたことを交流し合う。(1) ・先人の生き方から学んだことをまとめる。(1)

(3) 活動の様子



先人・原敬記念館見学



様々な資料を使つての調べ学習



調べたことの交流・個人課題作り



児童が作ったレポート

- ・米内光政は、軍人だったけれど本当は心から世界平和と戦いのない日本をつくろうと努力し続けた人だったのだと感じました。米内さんのような人が盛岡にいたことを知りうれしく思いました。
- ・原敬は様々な困難におそわれても決してあきらめず強い信念と努力で自分の道を切り開いた素晴らしい人だったと分かりました。私もこれから苦しいことがあるかもしれないけれど原さんみたいに生きていきたいです。

(4) 考察

学習の振り返り

- ・原敬記念館・先人記念館から多くの調べ学習用資料を借用したり教えていただいたりした。また、岩手県立図書館の子ども向け郷土資料を集めることができた。インターネットよりも焦点化され調べやすかったのも、今後も先人学習で活用していきたい。
- ・児童は、幼少期の友達との関係やファッション、あだ名等様々な視点で原敬と米内光政のことを調べていた。調べ学習の途中で交流を行ったことで、その後の個人課題についての調べ学習に広がりが見られたと感じている。
- ・先人の生き方に感銘を受け、そうありたいと感じている振り返りが多かった。しかし、小学生で「志」まで高めていくことは難しいと感じた。道徳等で同価値の資料を同時期に扱う等の工

夫があるとよい。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・全体計画の見直しを行うことにより、各教科や道徳、総合的な学習等の関わりを明らかにするとともに、小中の系統性をもたせた先人教育を推進することができた。また、全体計画を基に、児童の発達段階を踏まえた先人教育を進めることができた。
- ・地域の人材や施設を積極的に活用することにより、地域や地域の方々に、より一層の「愛着」や「親しみ」をもち、積極的に関わっていこうとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・各学年で行った学習の様子を記録したり集めた資料を蓄積したりするなど、次年度以降の学習にも生かし、より系統性のある先人教育の推進に結び付けること。
- ・各学年の実践を交流し、全職員で共通理解を図っていくこと。実践後に感じたことや改善点を明らかにするとともに、復興教育、キャリア教育との関わりを明確にしながら、郷土を愛し、自分の将来の夢や希望をもち、復興や社会の発展に関わっていこうとする児童の育成を目指して、全体計画の見直しを図っていくこと。
- ・「自分の生き方」を見つめることや、どのように行動していくか、学んだことから更に発展的な学びへ高めていくこと。

【先人コーナー・図書室前に設置】



【啄木短歌コーナー・児童玄関前に設置】



令和３年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

**地域や先人の生き方を学ぶこと
を通して，自身の生き方を見つ
め，生き方を考える児童・生徒
を育成する**

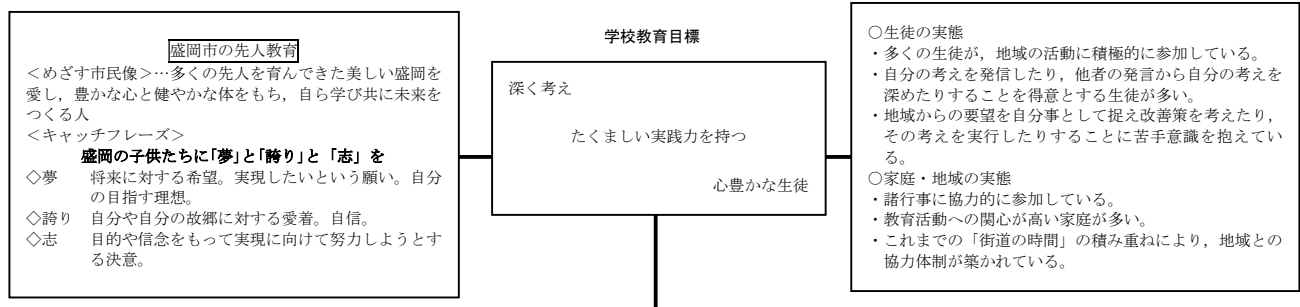
**～小・中学校の９年間の
育成を踏まえて～**

盛岡市立黒石野中学校

目 次

先人教育全体計画	1
1 研究主題設定の理由	2
2 研究の目標	2
3 研究の基本的な考え方	2
4 取組の概要	
先人教育の組み立て	3
先人教育コーナーの設置	3
朝読書の活用	3
第1学年「先人教育」年間指導計画	4
「総合的な学習の時間」における実践①	5
「総合的な学習の時間」における実践②	6
5 成果と課題	7
※黒石野中学校区の「先人教育」に関する成果と課題 ...	7
黒石野中学校区 先人教育全体計画	8

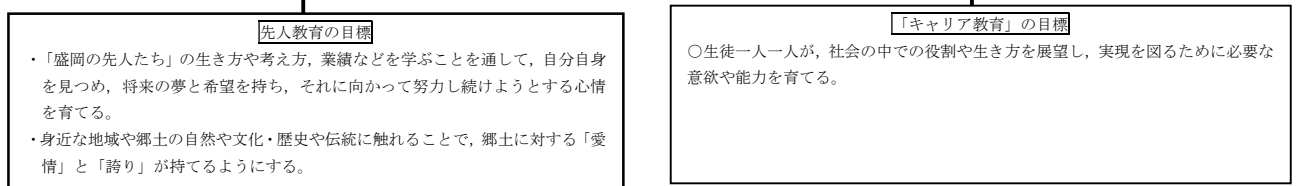
盛岡市立黒石野中学校先人教育全体計画



「総合的な学習の時間」の目標

(1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自らよく考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。

(2) 学び方やものの考え方を育成する。



	中学校 1 年生	中学校 2 年生	中学校 3 年生
めざす生徒像	・盛岡の風土・先人の活動が、現在を生きる地域住民に、どのように受け継がれているのか考えようとする生徒。	・「自身の現状」を適切に把握したり、「将来実現したいこと」をイメージしたりすることができる生徒。	・「自身の現状」の課題を解決しつつ、「将来実現したいこと」に向けて行動をおこすることができる生徒。
総合的な学習の時間	・「地域の人」に学ぶ① ※ふれあい体験 ・「先人」に学ぶ ・「夢・志」について考える ・地域に貢献する ・今年度のまとめ・自己評価	(案) ・「誇り」について考える① ※職場体験事前 ・「地域の人」に学ぶ② ※職場体験 ・「地域の人」に学ぶ③ ※防災学習 ・「地域の人」に学ぶ④ ※国際学習 ・今年度のまとめ・自己評価	(案) ・「誇り」について考える② ※修学旅行 ・「地域の人」に学ぶ⑤ ※先輩と語る会 ・「夢・志」の実現に向けて行動する ※進路 ・「夢・志」を表現する ・今年度のまとめ・自己評価
各教科	・地域の遺跡や古墳を訪ねて (社) ・地域の寺社を訪ねて (社) ・盛岡の魅力を伝えよう (英)	・地域の街道や港を訪ねて (社) ・明治期の面影を訪ねて (社) ・三行詩短歌で盛岡を表現しよう (国)	・大正・昭和の面影を訪ねて (社) ・移り変わる戦後の街を訪ねて (社)
特別の教科 「道徳」	・「壊れた看板」 ・「町内会デビュー」	・「ヨコスカネイビーパーカー」 ・「未来から来たおじいさん」 ・「五色桜」	・「ねぶたを夢見て」 ・「未来の日本へデビュー」 ・「白川郷に魅せられて」
盛岡の先人	・新渡戸稲造 ・米内光政	・鈴木盛久 ・金田一京助	・原敬 ・宮澤賢治
＜全校で実行すること＞ ・廊下等での先人コーナーの設置 ・副読本『盛岡の先人』の活用 ・地域奉仕活動 (年 2 回実施) ・みどりの子サポーターの皆さんへの感謝の手紙 (PTA 役員・上田交番・スクールガード・民生児童委員・主任児童委員・町内会長・学童クラブ指導員・児童センター指導員・緑が丘黒石野商工業会・図書事務・図書修理ボランティア・生け花ボランティア・学校医・学校薬剤師)			

学校名	盛岡市立黒石野中学校	生徒数	433 名
研究主題	地域や先人の生き方を学ぶことを通して、自身の生き方を見つめ、生き方を考える児童・生徒を育成する～小・中学校の9年間の系統性を踏まえて～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育では、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目指している。その3つの力を伸ばすための根幹の「学ぶ意欲・目的」を高めていくために重要な役割を果たすものの1つとして「盛岡市の先人教育」を位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳、「総合的な学習の時間」などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

そこで黒石野中学校区では、ブロック研究会での授業研究会、中学校教員による小学生への授業指導、児童生徒理解のための情報交換、中学校生徒会主体のあいさつ運動など、小中連携の様々な取組を行っている。また、学校区としての「先人教育」の取り組みにおいては、「黒石野中学校区先人教育全体計画」を立て、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、目標及び重点や具体的な取り組み等を共有し、各学校での実践を通して、目指す姿に近づきたいと考える。

「人に学ぶ」活動に重点を置く先人教育を充実させることは、生徒の学習経験を豊かなものにし、本校の教育目標である「深く考え たくましい実践力を持つ 心豊かな生徒」の実現に重なることから、本主題を設定した。

2 研究の目標

- ・「盛岡の先人たち」の生き方や考え方、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。
- ・身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」がもてるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ア 黒石野中学校区での小中9年間の系統性を踏まえた中学校段階での実践の充実
- イ 教科との関連性を大切にした先人教育の実践推進
- ウ 先人教育の視点と教科・道徳・総合的な学習の時間の関連を図った指導を実践的に推進する。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ア 黒石野中学校区3校共通主題による実践
- イ 各校の実践内容をもとに、先人教育全体計画の改善を図る。

(3) 取組内容

- ア 先人教育全体計画の見直し・改善
- イ 授業実践
- ウ 先人教育環境の整備

4 取組の概要

(1) 先人教育の組み立て

取組	先人教育年間指導計画の見直し	学年	
----	----------------	----	--

「自分自身を見つめ、将来の夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情」の育成をねらいに置き、なおかつ、「小学校の学習内容」「授業時数」等を考慮しながら、先人教育の年間指導計画の見直しを図った。下に示した表は、その一例である。令和3年度は、第1学年の先人教育全体計画を見直し、再編成し実践することができた。第2学年については令和4年度に、第3学年については令和5年度の再編成・実践を目指す予定である。

	当初の計画	現在の計画	修正した理由
4月	「先人の痕跡探し」準備	「先人の痕跡探し」削除	・扱う人物や、学ぶ内容等が 小学校5・6年生と重なる ため。 ・「生き方を学ぶ」活動の時間 を十分に確保するため。
5月	「先人の痕跡探し」実践		
6月	ふれあい体験学習準備	ふれあい体験学習準備	
7～8月	ふれあい体験学習	ふれあい体験学習	

(2) 先人教育コーナーの設置

取組	先人教育コーナーの設置	学年	
----	-------------	----	--

本校では、生徒玄関、階段、廊下など、1年生の往来が多い箇所に、先人や地域に関する情報を紹介するコーナーを設けている。単元の進捗状況や、取り扱った人物を踏まえて、発信する情報を更新することが、今後の課題である。



(3) 朝読書の活用

取組	副読本『盛岡の先人』の活用	学年	
----	---------------	----	--

第1学年では、副読本『盛岡の先人』を各学級の棚に置き、生徒がいつでも副読本を手にとることができるように工夫している。朝読書の読み物として熟読する姿や、読書感想文の題材とする生徒の姿が見られた。



第1学年「先人教育」年間指導計画

第一学年：先人教育で目指す生徒像 盛岡の風土・先人の活動が、現在を生きる地域住民に、どのように受け継がれているのか考えようとする生徒		
--	--	--

月	内容		時数
4	全体オリエンテーション（１）		1
5	「地域の人」に学ぶ①	・オリエンテーション（１）	21
6		・事前打ち合わせに向けて（２）	
7		・事前打ち合わせ（２）	
8		・直前打ち合わせ（１） ・ふれあい体験学習（４×２） ・当日の振り返り（１） ・コミュニケーションスキルトレーニング①（１）	
9		・報告会準備（２） ・報告会（２） ・全体の振り返り（１）	
10	「先人」に学ぶ	・オリエンテーション（１） ・コミュニケーションスキルトレーニング②（１） ・事前学習（１） ・先人学習講演会（２） ・振り返り（１）	6
11	「夢・志」について考える	・オリエンテーション（１） ・将来の「なりたい私」について考える（１） ・職業適性について考える（１） ・コミュニケーションスキルトレーニング③（１） ・進路計画について考える（１） ・振り返り（１）	6
12	地域に貢献する	・オリエンテーション（１） ・活動計画の立案（１）	5
1		・企画した活動の実施（２） ・振り返り（１）	
2～3	今年度のまとめ・自己評価		1
合計			40

(4) 「総合的な学習の時間」における実践①

単元名	「地域の人」に学ぶ	学年	第1学年
-----	-----------	----	------

① 単元の目標

- ・自分たちが生活する地域の現状やよさなどについて、体験を通して学ぶ。
- ・自分たちが生活する地域をよりよくするために活動している人たちがいることに気づき、その人たちの「夢・志」は何なのか考える。

② 指導計画（全21時間計画）

段階	学習活動
導入	○オリエンテーション（1） ふれあい体験学習の目的を共有し、活動の流れを把握する。
展開	○事前打ち合わせに向けて（2） ・「個人が学びたいこと・グループとして学びたいこと」について考える。 ・事前打ち合わせに向けたマナーを学ぶ。 ○事前打ち合わせ（2） ・活動する地域に赴き、地域の方と共に「ふれあい体験学習」当日の計画を確認する。 ○直前打ち合わせ（1） ・当日の持ち物・集合時間などを確認する。 ○ふれあい体験学習（4×2） ・地域の方と共に、地域の方が提案した活動に取り組む。 ○当日の振り返り（1） ・ふれあい体験学習での気づき・学びを振り返り、まとめる。
終末	○コミュニケーションスキルトレーニング①（1） ・ふれあい体験学習の気づき・学びを、聞き手を意識し、わかりやすく伝える方法を学ぶ。 ○報告会準備（2） ・ふれあい体験学習の気づき・学びを報告するために、レポート等にまとめる。 ○報告会（2） ・地域の方や保護者を招き、ふれあい体験学習の気づき・学びを発表する。 ○全体の振り返り（1） ・活動全体の成果・課題等をまとめる。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「ふれあい体験学習」「当日の振り返り」「報告会準備」「報告会」は実施できなかった。

③ 成果と課題

○緑が丘小学校・高松小学校とのブロック研究会前に実践が始まった単元であり、当初は、「先人教育」「キャリア教育」とのつながりを、十分に意識せず実践していた。しかし、合同会議を経て、「先人教育」と「総合的な学習の時間」の年間指導計画の見直しを図ったことで、教職員は、前後の単元とのつながりを意識して指導することができるようになった。

○ふれあい体験学習直前の生活記録ノートの記録には、「週末のふれあい体験学習が楽しみだ」「自分の住んでいる地域について、しっかりと考えたい」といった記述が多数みられた。活動は中止になったものの、地域や地域で活動する人について考える機会になった様子が伺える。

▲教職員による他単元とのつながりを意識することが遅れたことで、「先人教育」「キャリア教育」との関連性を踏まえて実践することが十分ではなかった。そのため、報告会を実施しても、活動紹介に終始し、生徒たちの「夢・志」を十分に深める機会にならなかった。次年度は、年度当初より、全ての活動が生徒たちの「夢・志」を考える機会につながることを意識し実践したい。

(5) 「総合的な学習の時間」における実践②

単元名	「先人」に学ぶ	学年	第1学年
-----	---------	----	------

① 単元の目標

日本や世界、盛岡の先人たちが抱いていた「夢」「誇り」「志」に触れ、「自分の夢は何なのか」「夢の実現に向けて、自分が大切にしていることは何なのか」といった、自身のキャリアについて考える機会にする。

② 指導計画（全6時間計画）

段階	学習活動
導入	○オリエンテーション（1） ・先人講演会の目的を共有し、活動の流れを把握する。
展開	○コミュニケーションスキルトレーニング②（1） ・演習を通して先人講演会での学びの視点（「夢・志は何か？」「夢・志に一步でも近づくために大切にしていることは何か？」「困難なことに直面した時、どのように克服しようとしているか？」）を学ぶ。 ○事前学習（1） ・先人学習講演会当日の流れを確認する。 ○先人学習講演会（2） ・先人記念館の館長の講演を聞き、取り上げられた先人の「夢・志」「夢・志に一步でも近づくために大切にしていること」「困難なことに直面した時の克服の仕方」について考える。
終末	○振り返り（1） ・先人講演会の気付きや学びをレポートにまとめる。

③ 成果と課題

○「夢や志」をキーワードとする学びの視点を設定したことで、講演会を聞く際の視点の焦点化を図ることができ、レポート作成までスムーズに取り組むことができた。業績について調べることに終始するのではなく、「夢や志」をキーワードにしたことで、先人たちの生き方が自分にどのように活かせるか考える生徒も大勢見られた。

▲気付きや学びを発表する場を設け、他者からフィードバックを受け、自身の考えを更に深める機会を設定したい。

5 成果と課題

(1) 成果

- 三校合同会議を経て、小学校の年間指導計画を把握したことで、学習内容の重複を避けることを意図した、第一学年の「総合的な学習の時間」の年間指導計画を構想し、その一部を実践することができた。
- これまでの「総合的な学習の時間」の年間指導計画を見直し、「先人教育」「キャリア教育」に重点を置いて整理することで、学びの連続性を意識した年間指導計画へと修正を図ることができた。
- 特に、単元「先人に学ぶ」については、先人の業績を学ぶだけでなく、気付きや学びを生徒自身の「夢・志」に還元するように授業を実践することができた。

(2) 課題

- ▲第2学年と第3学年の「総合的な学習の時間」の年間指導計画の見直しを十分に図ることができなかった。令和4年度と令和5年度にかけて見直しを図り、小学校6年間の学びを土台としつつ、中学校3年間の体系化を図った年間指導計画の構想に取り組みたい。
- ▲教職員が年度当初から学びの連続性を十分に意識できていなかった。「先人教育」「キャリア教育」は、「生徒が自身の「夢」「誇り」「志」について考える学習である」という意図を十分に意識し、授業を実践していきたい。
- ▲新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ふれあい体験学習が2年連続で中止となった。これまで本校で培ってきたノウハウを途切れさせないように、地域住民との渉外の方法等について記録を残す必要がある。

黒石野中学校区の「先人教育」に関する成果と課題

【成果】

- ブロック研究会で先人教育の目標等を3校で共有した上で、各校で先人教育の全体計画について見直しを図り、それらの情報を踏まえて小・中9年間の系統性を大切にした「先人教育全体計画」を構想することができた。
- 先人教育の内容を生活科や「総合的な学習の時間」の内容に位置付け、指導を実践的に推進することができた。

【課題】

- ▲新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止又は制限を受けた活動が多々みられた。2年連続で中止になった活動もあるため、コロナ禍がおさまった際に確実に実践できるよう、渉外や指導のノウハウを記録する必要がある。
- ▲先人教育に重点を置いた生活科や「総合的な学習の時間」の実践交流をする機会を十分に設けることができなかった。小・中の実態を確認し合ったり、学習の振り返りの方法を検討したりするために、改めて実践交流の充実を図る必要がある。

黒石野中学校区 先人教育全体計画

盛岡市の先人教育	
くめさす市民像…多くの先人を育んできた美しい盛岡を愛し、豊かな心と健やかな体をもち、自ら学び共に未来をつくる人	
＜キャリアアップ・盛岡の子供たちに「夢」と「誇り」と「志」を＞	
将来に対する希望。実現したいという願い。自分の目指す理想。	
◇誇り 自分や自分の成績に対する愛着。自信。	
◇志 目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意。	

先人教育の目標	
・「盛岡の先人たち」の生き方や考え方、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、将来の夢と希望を持ち、それに向かって努力し続けようとする心構えを育てる。	
・身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」がもてるようにする。	

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	中 1	中 2	中 3	
めざす子ども像	緑小 ・盛岡の先人にかかわる人や土地について「興味・関心」をもつ子ども。 ・人や土地との関わりを通して、願いを持ち、願いに向かって自分ができることをやりぬこうとする子ども。	緑小 ・盛岡の先人と風土に対する「誇り」をもつ子ども。 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して、自分を見つめて立てた目標に向かって努力する子ども。	緑小 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して、自分を見つめて立てた目標に向かって努力する子ども。 ・身近な地域や郷土について、自分なりの学び方で捉え、「愛着」や「誇り」がもてる子ども。	緑小 ・盛岡の魅力を伝えよう。 高小 ・岩手のよさはおもしろい ・お祭りについて(高小)	緑小 ・感謝の気持ちを伝えよう。 高小 ・盛岡のよき発見「盛岡探検隊」	緑小 ・盛岡の中で、日本の中で、世界の中で生きる「夢」「誇り」「志」を持つ子ども。 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して自分を見つめ、持った夢や希望に向かって努力する子ども。	高小 ・「盛岡の先人たちの」生き方や考え方、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望を持ち、それに向かって努力し続けようとする子ども。 ・身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」が持てる子ども	・盛岡の風土・先人の活動が、現在を生きる地域住民に、どのように受け継がれているのか考えようとする生徒。	・「自身の現状」を適切に把握したり、「将来実現したいこと」をイメージしたりすることができるとする生徒。	・「自身の現状」の課題を解決しつつ、「将来実現したいこと」に向けて行動をおこすことができる生徒。
	緑小 ・「がっこうだいすき」みんなであつがくろをあるこう。 ・「なつがやがってきた」みんなのこうえんであそぼう。 ・「たのしいあきいっぱい」こうえんであきをさがそう。	緑小 ・どきどきわくわくまちゃんけん ・どきどきわくわくまちゃんけん ・みんなであつがくろのしぜつ	緑小 ・「大好き緑が丘」名に学ぼう 高小 ・ぼくらは高松はかせ	緑小 ・盛岡の魅力を伝えよう。 高小 ・岩手のよさはおもしろい ・お祭りについて(高小)	緑小 ・感謝の気持ちを伝えよう。 高小 ・盛岡のよき発見「盛岡探検隊」	緑小 ・盛岡の中で、日本の中で、世界の中で生きる「夢」「誇り」「志」を持つ子ども。 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して自分を見つめ、持った夢や希望に向かって努力する子ども。	高小 ・「盛岡の先人たちの」生き方や考え方、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望を持ち、それに向かって努力し続けようとする子ども。 ・身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」が持てる子ども	・「地域の人」に学ぶ① ※ふれあい体験 ・「先人」に学ぶ ・「夢・志」について考える ・地域に貢献する ・今年度のまとめ・自己評価	(案) ・「誇り」について考える① ※職場体験事前学習 ・「地域の人」に学ぶ② ※職場体験 ・「地域の人」に学ぶ③ ※防災学習 ・「地域の人」に学ぶ④ ※国際学習 ・今年度のまとめ・自己評価	(案) ・「誇り」について考える② ※修学旅行 ・「地域の人」に学ぶ⑤ ※先輩と語る会 ・「夢・志」の実現に向けて行動する ※進路 ・「夢・志」を表現する ・今年度のまとめ・自己評価
生活科・総合的な学習の時間	緑小 ・「がっこうだいすき」みんなであつがくろをあるこう。 ・「なつがやがってきた」みんなのこうえんであそぼう。 ・「たのしいあきいっぱい」こうえんであきをさがそう。	緑小 ・どきどきわくわくまちゃんけん ・どきどきわくわくまちゃんけん ・みんなであつがくろのしぜつ	緑小 ・「大好き緑が丘」名に学ぼう 高小 ・ぼくらは高松はかせ	緑小 ・盛岡の魅力を伝えよう。 高小 ・岩手のよさはおもしろい ・お祭りについて(高小)	緑小 ・感謝の気持ちを伝えよう。 高小 ・盛岡のよき発見「盛岡探検隊」	緑小 ・盛岡の中で、日本の中で、世界の中で生きる「夢」「誇り」「志」を持つ子ども。 ・盛岡の先人の生き方や考え方、業績を学ぶことを通して自分を見つめ、持った夢や希望に向かって努力する子ども。	高小 ・「盛岡の先人たちの」生き方や考え方、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望を持ち、それに向かって努力し続けようとする子ども。 ・身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛着」と「誇り」が持てる子ども	・「地域の人」に学ぶ① ※ふれあい体験 ・「先人」に学ぶ ・「夢・志」について考える ・地域に貢献する ・今年度のまとめ・自己評価	(案) ・「誇り」について考える① ※職場体験事前学習 ・「地域の人」に学ぶ② ※職場体験 ・「地域の人」に学ぶ③ ※防災学習 ・「地域の人」に学ぶ④ ※国際学習 ・今年度のまとめ・自己評価	(案) ・「誇り」について考える② ※修学旅行 ・「地域の人」に学ぶ⑤ ※先輩と語る会 ・「夢・志」の実現に向けて行動する ※進路 ・「夢・志」を表現する ・今年度のまとめ・自己評価
全校で取り組むこと	緑小 ・先人カレンダールの各教室への掲示 ・盛岡の先人コーナーの設置 ・先人記念館・原敬記念館・啄木記念館等の見学 ・みどりの子サポーター・スクールガードの皆さんへの感謝の手紙 ・先人給食習慣実施時における、量の放送での特集、啓蒙行動 高小 ・先人カレンダールの各教室への掲示 ・盛岡の先人コーナーの設置 ・先人記念館・原敬記念館・啄木記念館等の見学 ・みどりの子サポーター・スクールガードの皆さんへの感謝の手紙						・廊下等での先人コーナーの設置 ・地域奉仕活動(年2回実施)			